

# 第3章

## 調査結果と分析

児童生徒の実態等に応じて、平成14年度の質問項目及び回答について次のような変更を行っている。

- 1 新たに追加した「質問項目」
  - ・メールのやりとりの有無 [問23 (小学校5年生・中学校2年生)]
  - ・見ず知らずの人とのメールやりとりの有無 [問24 (小学校5年生・中学校2年生)]
- 2 新たに追加した「質問項目の選択肢」
  - ・パソコンや携帯電話 [問10 (全校種)]
  - ・遊び方や遊ぶ時間 [問11 (全校種), 問7 (教師), 問10 (保護者)]
  - ・わからない [問16 (保護者)]
  - ・人間関係を築く力を身に付けさせる [問8 (教員), 問12 (保護者)]
  - ・人間関係を築く力を充実させる活動の推進 [問18 (教員), 問26 (保護者)]
  - ・生活習慣が乱れる [問21 (教員), 問29 (保護者)]

### 3 変更した「質問項目」

平成19年度	平成14年度
髪を染めていたり、化粧をしている	髪を染めている ピアスをしている
制服を決められたとおりに着ていない	ズボンやスカートを決められたとおりにしていない
授業に関係のないものを持ってきて遊ぶ	CDなどの音楽を聞く
担任以外の学校の先生や相談員	担任以外の学校の先生
お金などをもらって異性と交際をする	援助交際をする

### 4 変更した「回答項目の選択肢」

- ・問18 (中学校2年生・高校2年生)

平成19年度	平成14年度
少しいやな感じがする	かなりいやな感じがする

- ・問19 (中学校2年生・高校2年生)

平成19年度	平成14年度
少し悪い	かなり悪い

- ・問31 (小学校5年生), 問33 (中学校2年生), 問34 (高校2年生), 問19 (教員), 問27 (保護者)

平成19年度	平成14年度
どちらかといえば悪い	少し悪い, あまり悪くない (小学校5年生)
どちらかといえば悪くない	かなり悪い, あまり悪くない (小学校5年生以外)

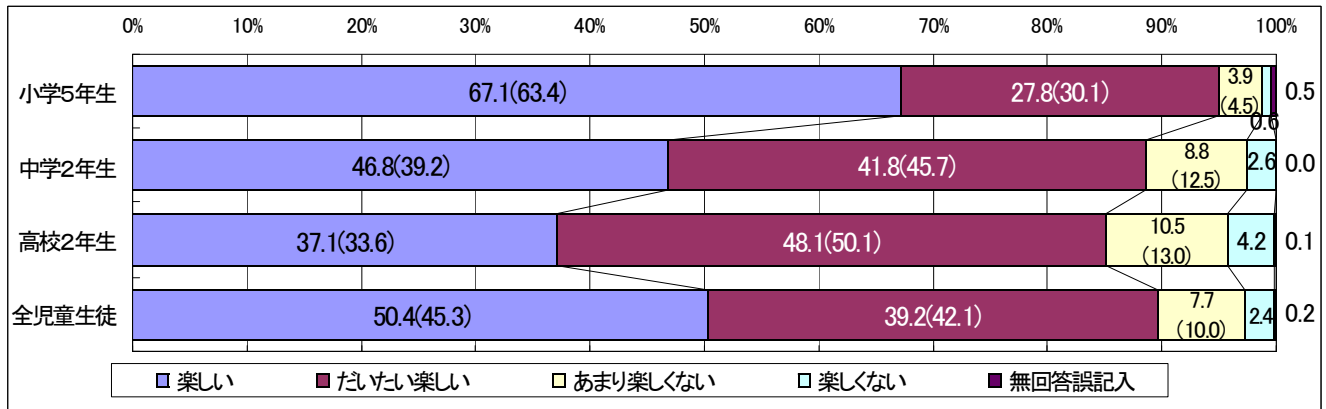
※ グラフ内の数値は平成19年度調査における割合を表す。  
 ( ) 内の数値は平成14年度調査における割合を表す。



# I 家庭生活に対する意識

## 1 家庭の楽しさ 【小学5年生…問4】【中学2年生…問4】【高校2年生…問4】

あなたは、家庭での生活が楽しいですか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を答えてください。  
 (1) 楽しい (2) だいたい楽しい (3) あまり楽しくない (4) 楽しくない

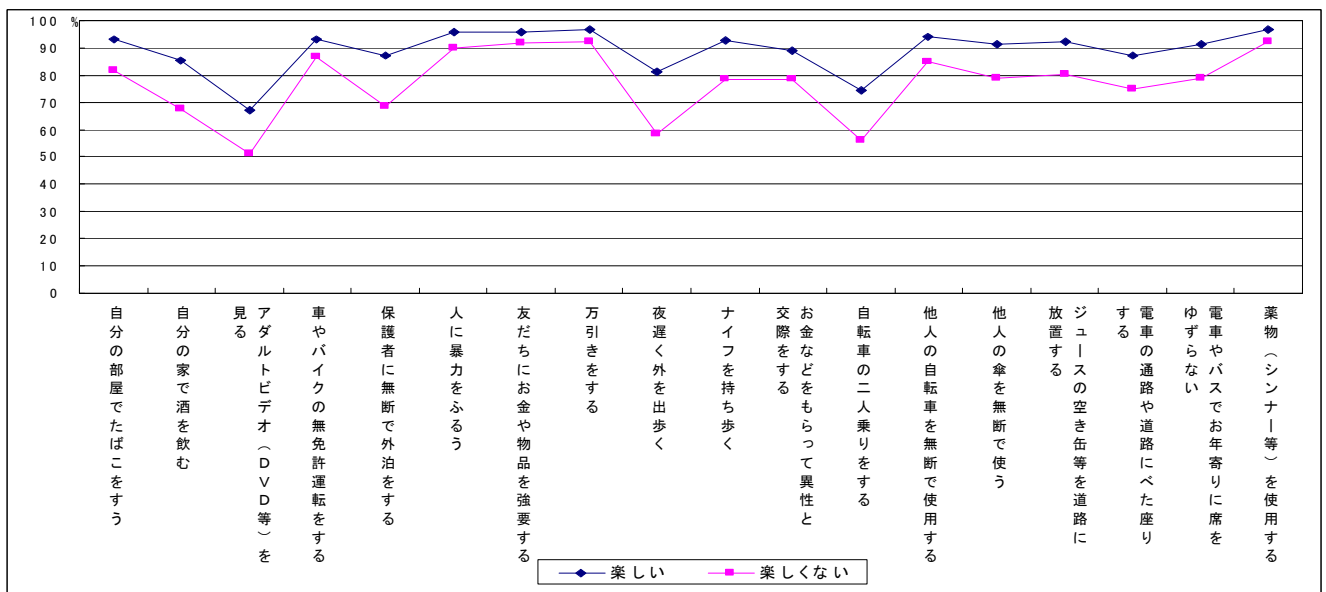


- 全児童生徒での回答の割合において、「楽しい」＋「だいたい楽しい」（以下、「楽しい」という。）は89.6%である。逆に、「あまり楽しくない」＋「楽しくない」（以下、「楽しくない」という。）は10.1%で、その内訳は小学校5年生 4.5%、中学校2年生 11.4%、高校2年生 14.7%である。（以下、小学校5年生を小5、中学校2年生を中2、高校2年生を高2と略す。）
- 平成14年度と比較すると、中2の「楽しい」が前回に比べ7.6ポイント増加している。

### ◇「家庭の楽しさ」と「友だちの行為に対する善悪の判断」[IV 規範意識 (P. 66~P. 72)] との関係【クロス集計】

「家庭の楽しさ」は、「楽しい」（楽しい＋だいたい）群と、「楽しくない」（あまり＋楽しくない）群の二つに分け、「友だちの行為に対する善悪の判断」は、「悪い」（とても＋どちらかといえば）群と、「悪くない」（どちらかといえば＋まったく）群の二つに分けて分析した。

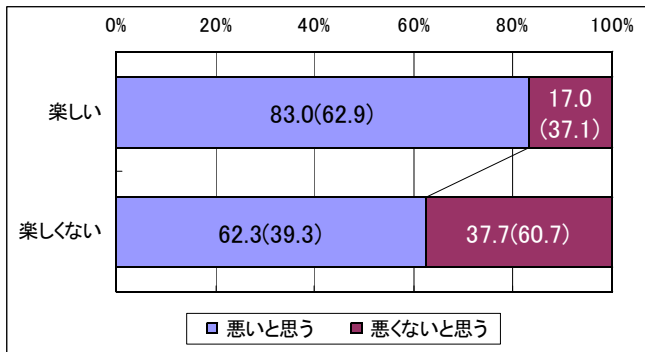
#### ①各項目に対して「悪い」と思うものの割合（全児童生徒）



- 反社会的・非社会的行動に対して「悪い」と思う児童生徒の割合は、「楽しい」と回答した群が、「楽しくない」と回答した群よりもすべての項目において高い。
- 平成14年度と比較すると、全体的に規範意識が向上している。ただし、「アダルトビデオ(DVD等)を見る」「夜遅く外を出歩く」「自転車の二人乗りをする」の3項目については、規範意識の向上・改善が望まれる。

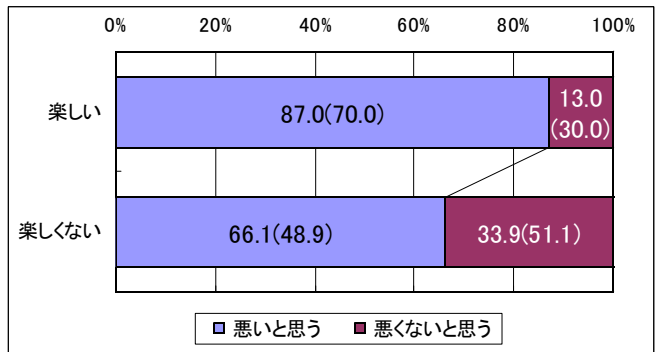
②平成14年度に顕著な傾向を示した項目における平成19年度の結果（全児童生徒）

【夜遅く外を出歩く】



○楽しい 2040人 ○楽しくない 223人

【自分の家で酒を飲む】



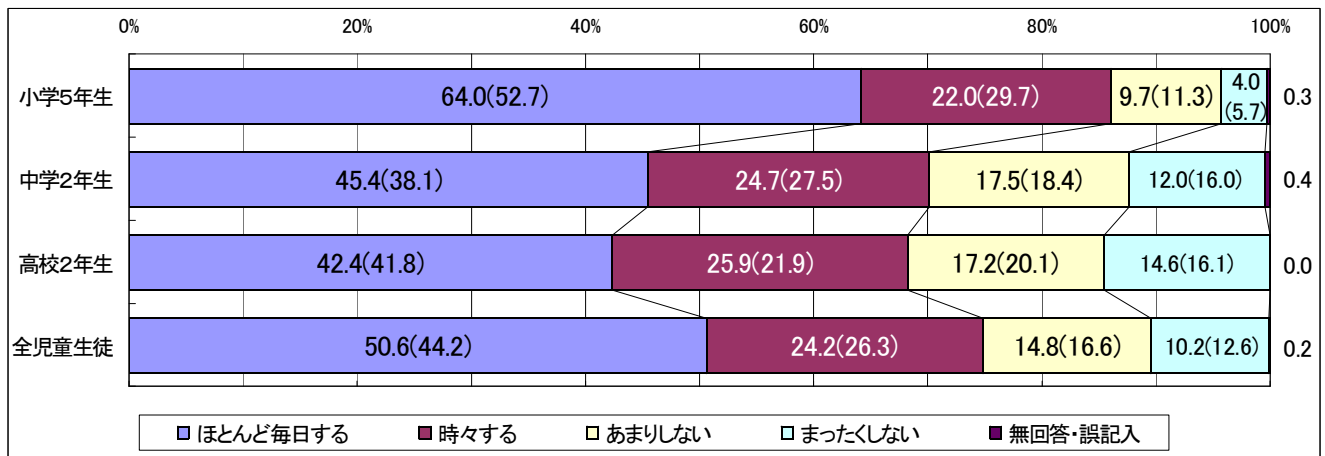
○楽しい 2043人 ○楽しくない 189人

- 「夜遅く外を出歩く」「自分の家で酒を飲む」のそれぞれについて、「悪いと思う」と回答した割合は、「楽しい」と回答した群、「楽しくない」と回答した群ともに増加し、その差は平成14年度とほぼ同じである。

2 朝のあいさつ 【小学5年生…問5】【中学2年生…問5】【高校2年生…問5】

朝起きて、家の人に「おはよう」などの朝のあいさつはしますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

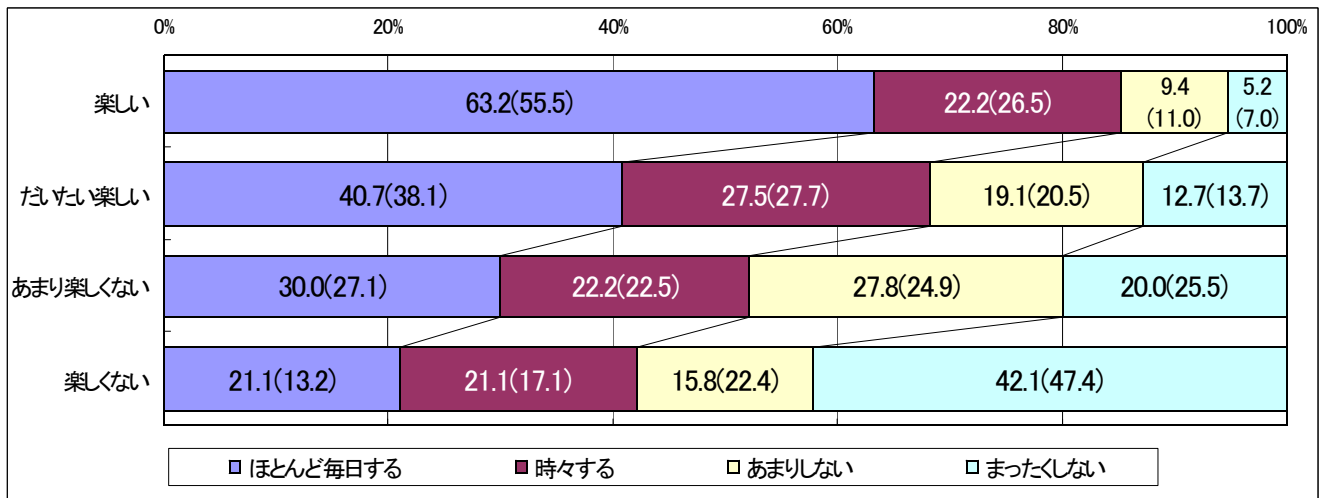
- (1) ほとんど毎日する (2) 時々する (3) あまりしない (4) まったくしない



- 「ほとんど毎日する」+「時々する」は、小5 86.0%、中2 70.1%、高2 68.3%と、学年が上がるごとに回答の割合が減少している。平成14年度と同様の傾向である。

◇「朝のあいさつ」と「家庭の楽しさ」との関係【クロス集計】

①全児童生徒

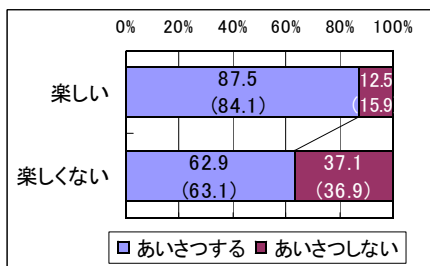


- 「家庭を楽しい」と答えた児童生徒のうち、85.4%があいさつをしている(ほとんど毎日+時々)と回答している。「家庭を楽しくない」と答えた児童生徒のうち、42.1%があいさつをまったくしていないと回答している。「朝のあいさつ」をしている児童生徒は、「家庭の楽しさ」を感じている傾向が見られる。

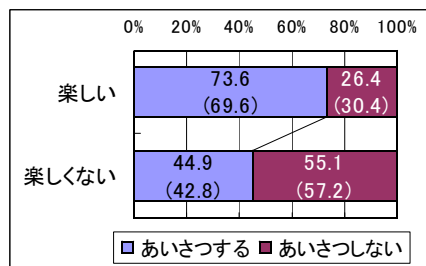
②校種別

家庭生活を「楽しい」と回答した群と、「楽しくない」と回答した群に、朝の「あいさつをする」(ほとんど毎日+時々)群と、「しない」(あまり+まったく)群にそれぞれ分けて、校種別・学年別(以下、校種別と記す)にクロス集計を行い、分析した。

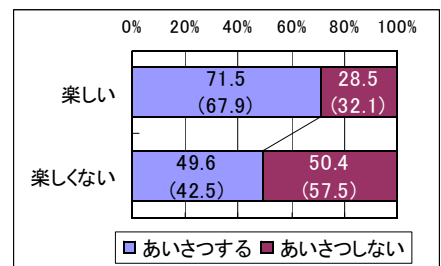
【小学5年生】



【中学2年生】



【高校2年生】



○楽しい 737人 楽しくない 35人

○楽しい 690人 楽しくない 89人

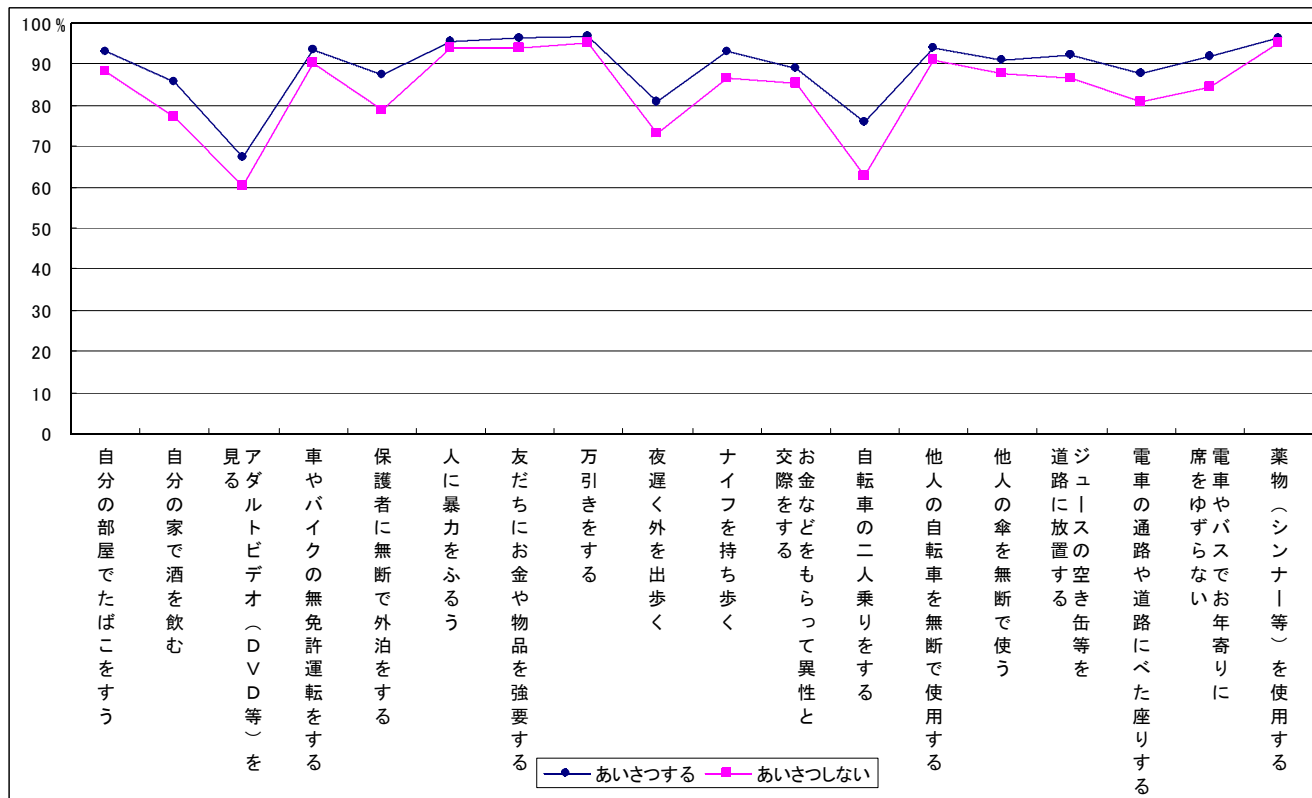
○楽しい 655人 楽しくない 113人

- 小5、中2、高2とも、「楽しい」と答えた群が、「楽しくない」と答えた群よりも、「あいさつする」割合が20ポイント以上上回っている。(小5 24.6ポイント、中2 28.7ポイント、高2 21.9ポイント)平成14年度と同様の傾向である。

◇「朝のあいさつ」と「友だちの行為に対する善悪の判断」〔IV 規範意識 (P. 66～P. 72)〕との関係【クロス集計】

「朝のあいさつ」は、「あいさつする」(ほとんど+毎日)群と、「あいさつしない」(あまり+まったく)群の二つに分け、「友だちの行為に対する善悪の判断」は、「悪い」(とても+どちらかといえば)群と、「悪くない」(どちらかといえば+まったく)群の二つに分けて分析した。

①各項目に対して「悪い」と思うものの割合(全児童生徒)

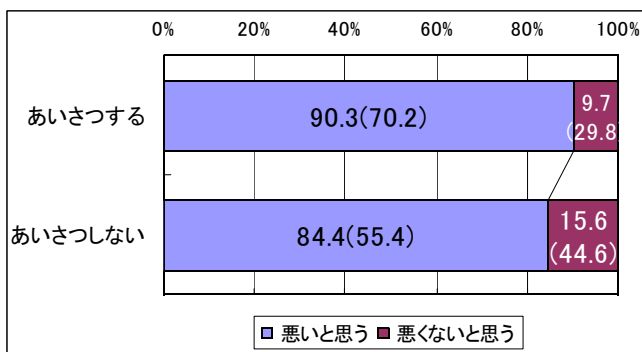
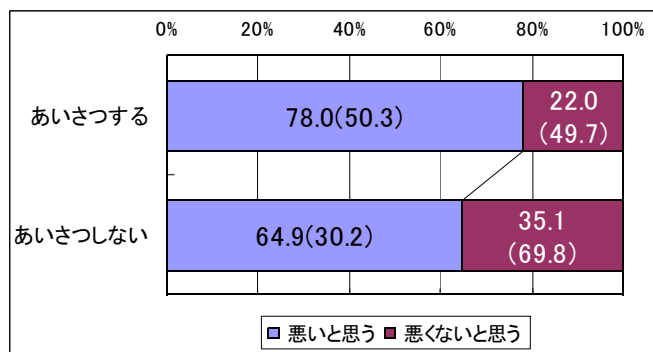


●反社会的・非社会的行動に対して「悪い」と思う児童生徒の割合は、「あいさつする」と回答した群が、「あいさつしない」と回答した群よりも、すべての項目において高い。

②平成14年度に顕著な傾向を示した項目における平成19年度の結果(全児童生徒)

【自転車の二人乗りをする】

【電車の通路や道路でべた座りする】



○あいさつする 1695人 ○あいさつしない 562人

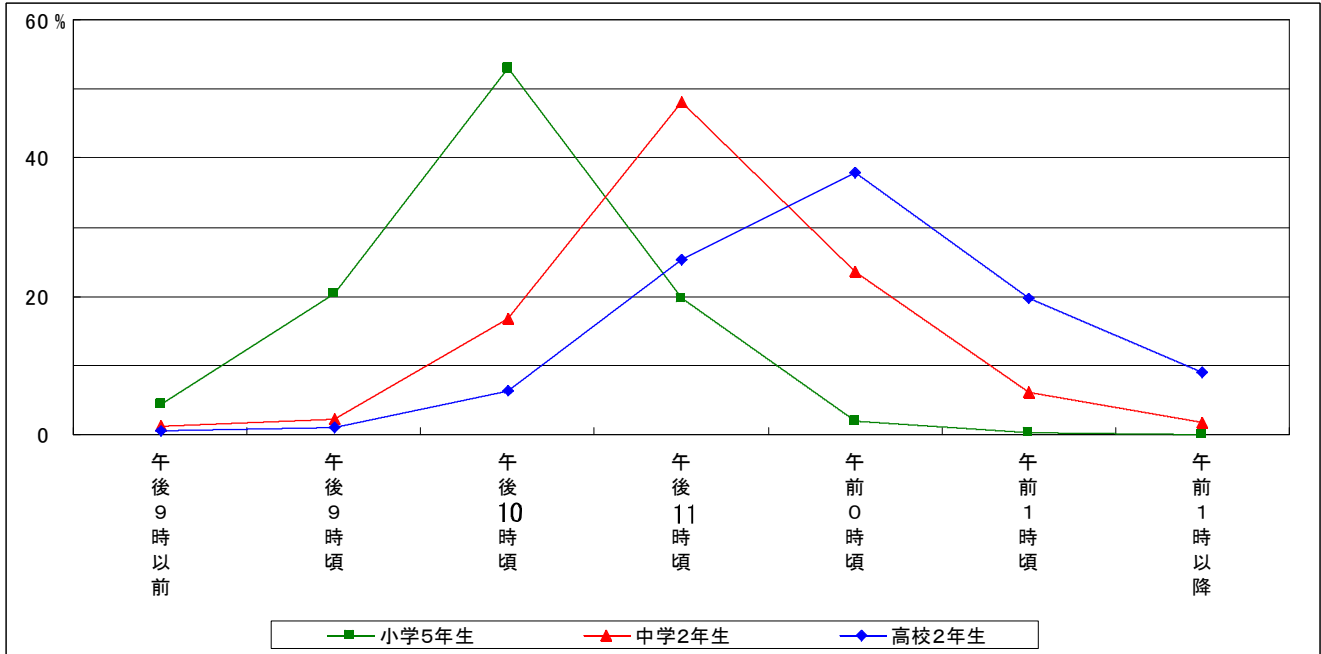
○あいさつする 1693人 ○あいさつしない 557人

●「自転車の二人乗りをする」「電車の通路や道路でべた座りする」のそれぞれについて、「悪いと思う」と回答した割合は、「あいさつする」と回答した群、「あいさつしない」と回答した群ともに増加し、その差が縮まっている。

### 3 就寝時刻 【小学5年生…問6】【中学2年生…問6】【高校2年生…問6】

あなたはふだん何時頃に寝ますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

- (1) 午後9時以前 (2) 午後9時頃 (3) 午後10時頃 (4) 午後11時頃  
 (5) 午前0時頃 (6) 午前1時頃 (7) 午前1時以降

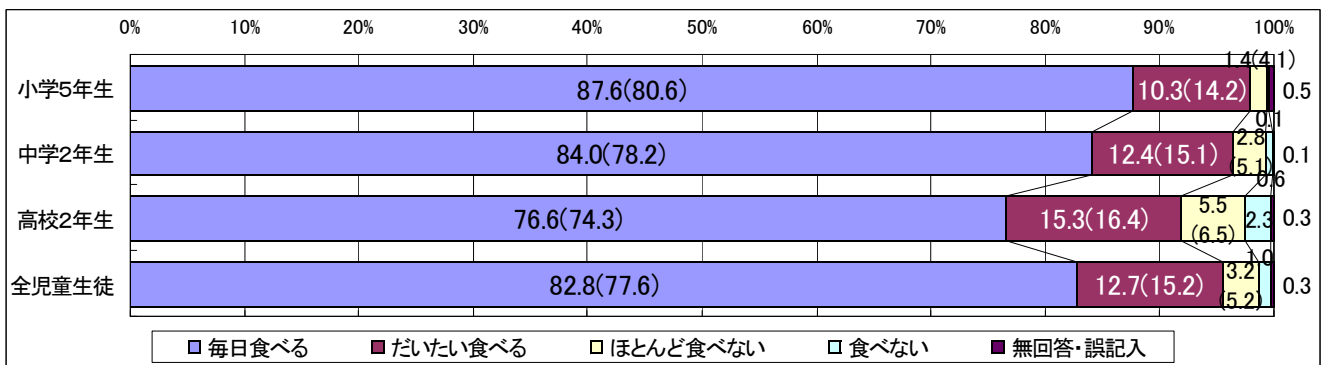


- それぞれのピークは、小5では「午後10時」(52.8%)、中2では「午後11時」(48.2%)、高2では「午前0時」(38.0%)となっており、午前0時以降に就寝しているのは、小5 0.1%、中2 7.8%、高2 28.7%である。平成14年度と同様の傾向である。

### 4 朝食の有無 【小学5年生…問7】【中学2年生…問7】【高校2年生…問7】

あなたは、朝食を食べていますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

- (1) 毎日食べる (2) だいたい食べる (3) ほとんど食べない (4) 食べない

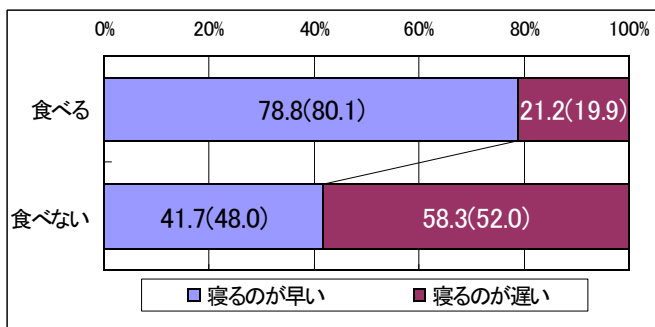


- 朝食を「毎日食べる」+「だいたい食べる」と回答したのは、全児童生徒のうち95.5%である。逆に、「ほとんど食べない」+「食べない」児童生徒は4.2%である。校種別に見ると「ほとんど食べない」+「食べない」児童生徒の割合は、小5 1.5%、中2 3.4%、高2 7.8%であり、学年が上がるにつれて割合が高くなっている。平成14年度と比較すると、「朝食を毎日食べる」と回答した児童生徒の割合が、全校種において増えている。小5においては7.0ポイント増えている。

### ◇「朝食」と「就寝時刻」との関係【クロス集計】

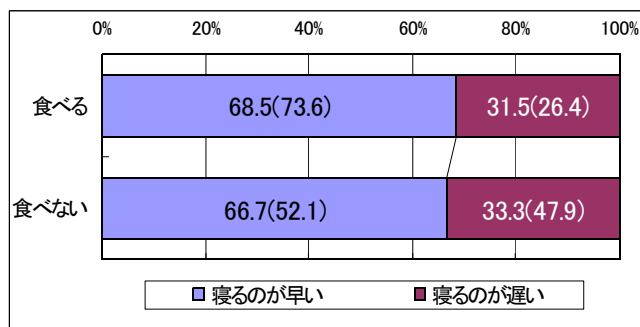
「朝食」は「食べる」（毎日+だいたい）群と、「食べない」（ほとんど+食べない）群に分け、「就寝時刻」は、各学年のピークの時間帯（小5…午後10時頃、中2…午後11時頃、高2…午前0時頃）を境とし、「早い」（ピークの時間帯を含む）群と「遅い」（それ以降）群に分けて分析した。

【小学5年生】



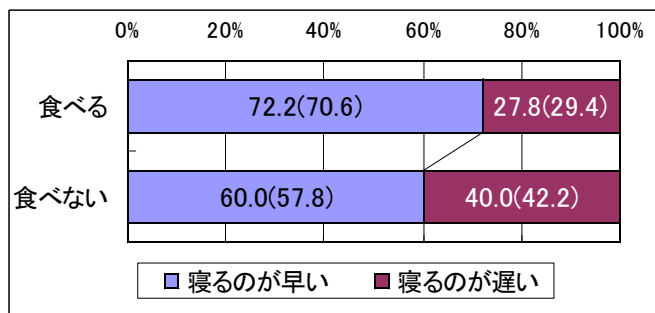
○食べる 758人 食べない 12人

【中学2年生】



○食べる 753人 食べない 27人

【高校2年生】



○食べる 706人 食べない 60人

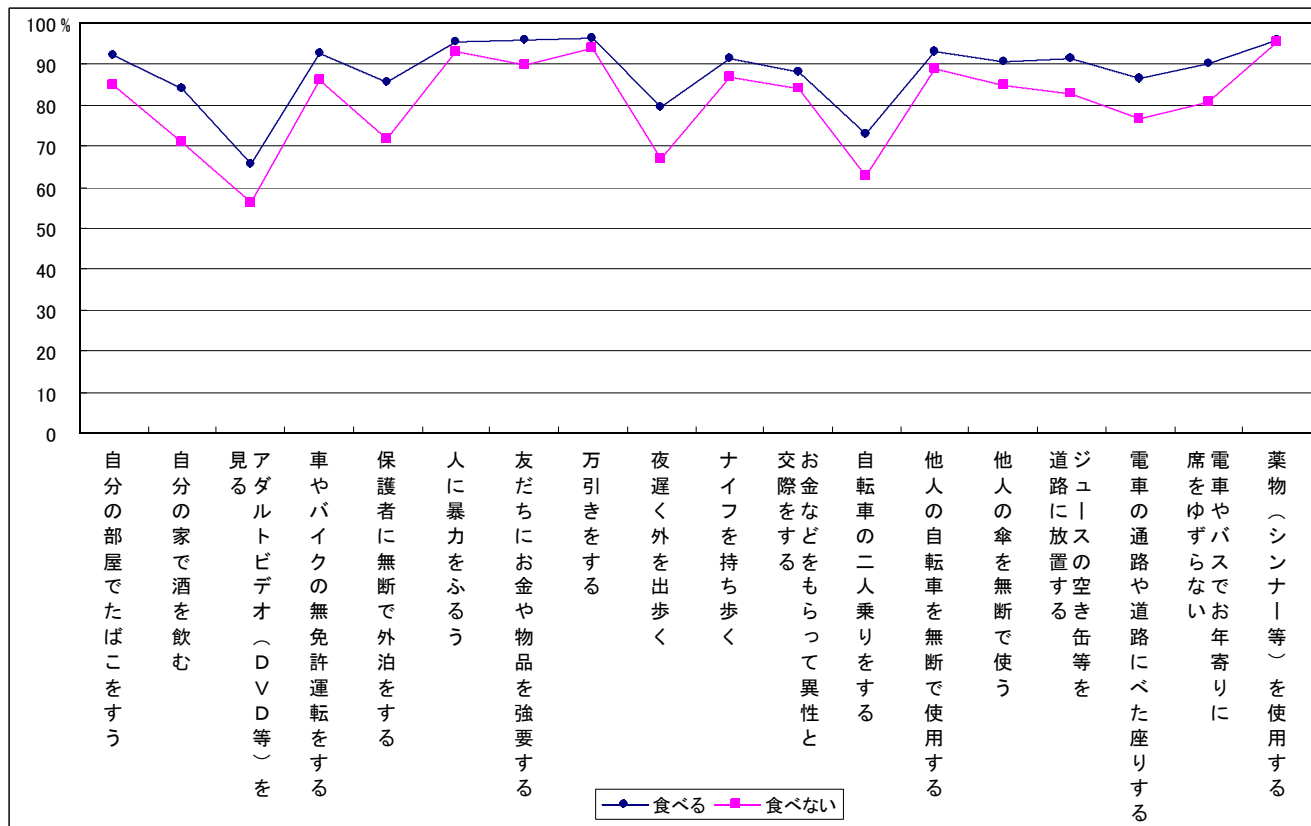
- 全校種とも、朝食を「食べない」群は「食べる」群よりも、就寝時刻が遅い割合が高い。
- 平成14年度と比較すると、「寝るのが遅い」を選んだ小5で「朝食を食べない」と答えた児童が6.3ポイント増えている。



◇「朝食」と「友だちの行為に対する善悪の判断」〔IV 規範意識 (P.66~P.72)〕との関係【クロス集計】

「朝食」は、「食べる」(毎日+だいたい)群と、「食べない」(あまり+食べない)群の二つに分け、「友だちの行為に対する善悪の判断」は、「悪い」(とても+どちらかといえば)群と、「悪くない」(どちらかといえば+まったく)群の二つに分けて分析した。

①各項目に対して「悪い」と思うものの割合 (全児童生徒)

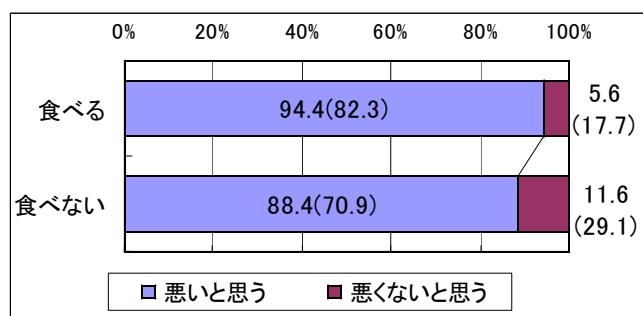


●反社会的・非社会的行動に対して「悪い」と思う児童生徒の割合は、「朝食を食べる」と回答した群が、「朝食を食べない」と回答した群よりも、すべての項目において高い。平成14年度と同様の傾向である。

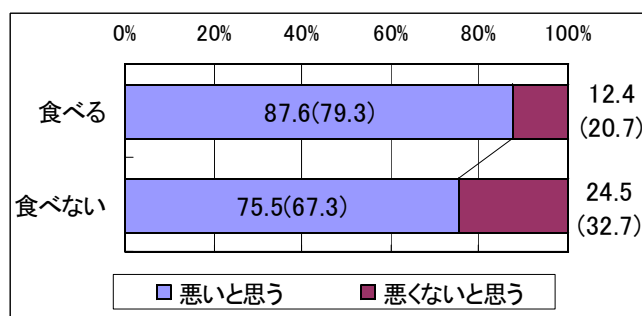
②平成14年度に顕著な傾向を示した項目における平成19年度の結果 (全児童生徒)

【自分の部屋でたばこをすう】

【保護者に無断で外泊する】



○食べる 2170人 食べない 95人

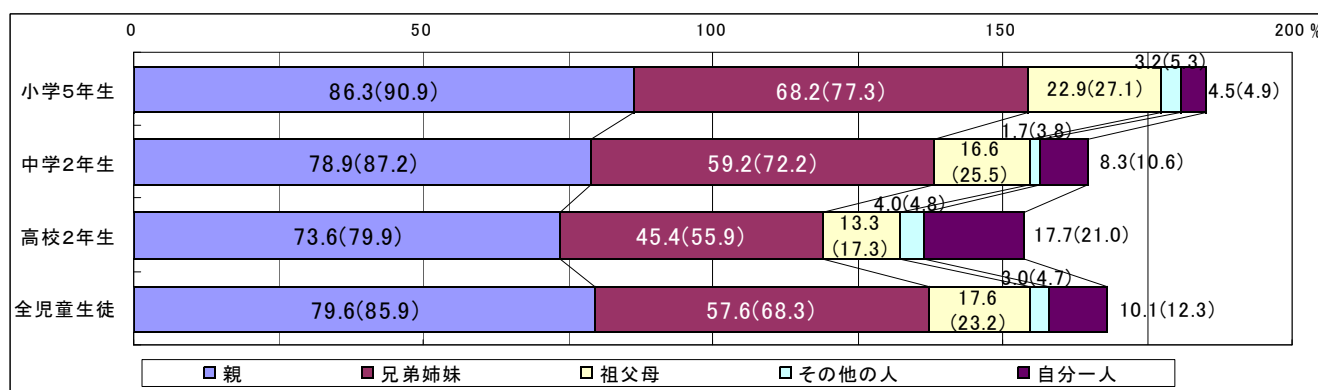


○食べる 2175人 食べない 94人

●「自分の部屋でたばこをすう」「保護者に無断で外泊する」のそれぞれについて、「悪いと思う」と回答した割合は、朝食を「食べる」と回答した群、「食べない」と回答した群ともに増加し、その差が「自分の部屋でたばこをすう」については縮まっている。

## 5 夕食の相手 【小学5年生…問8】【中学2年生…問8】【高校2年生…問8】

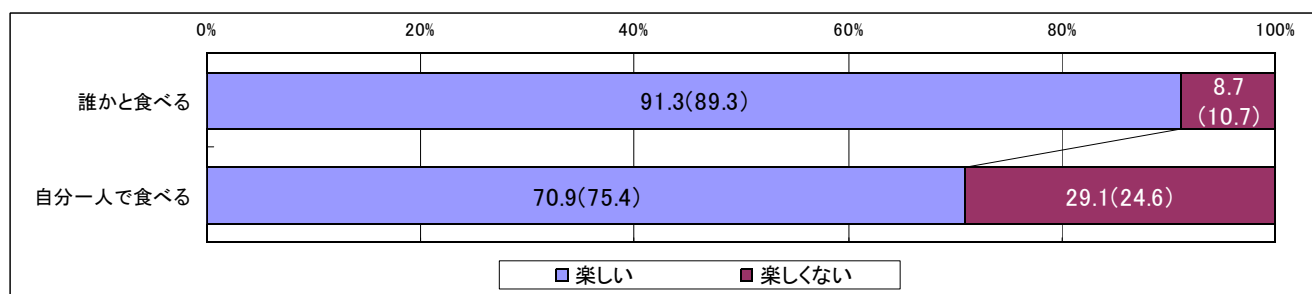
あなたは夕食をだれと食べることが多いですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号を答えてください。  
 (1) 親 (2) 兄弟姉妹 (3) 祖父母 (4) その他の人 (5) 自分一人



- 全校種ともに最も多いのは「親」で、次いで「兄弟姉妹」の順である。一方、小5で22人に1人(4.5%)、中2で12人に1人(8.3%)、高2で6人に1人(17.7%)は自分一人で食べていることになる。学年が上がるにつれて、自分一人で食べる児童生徒が増えているのは、平成14年度と同様の傾向である。

### ◇「夕食の相手」と「家庭の楽しさ」との関係【クロス集計】

夕食を「誰かと食べる」(全体から「自分一人で食べる」を除いたもの)群と、「自分一人で食べる」群の二つに分け、家庭生活を「楽しい」(楽しい+だいたい)と感じる群と、「楽しくない」(あまり楽しくない+楽しくない)と感じる群の二つに分けて分析した。



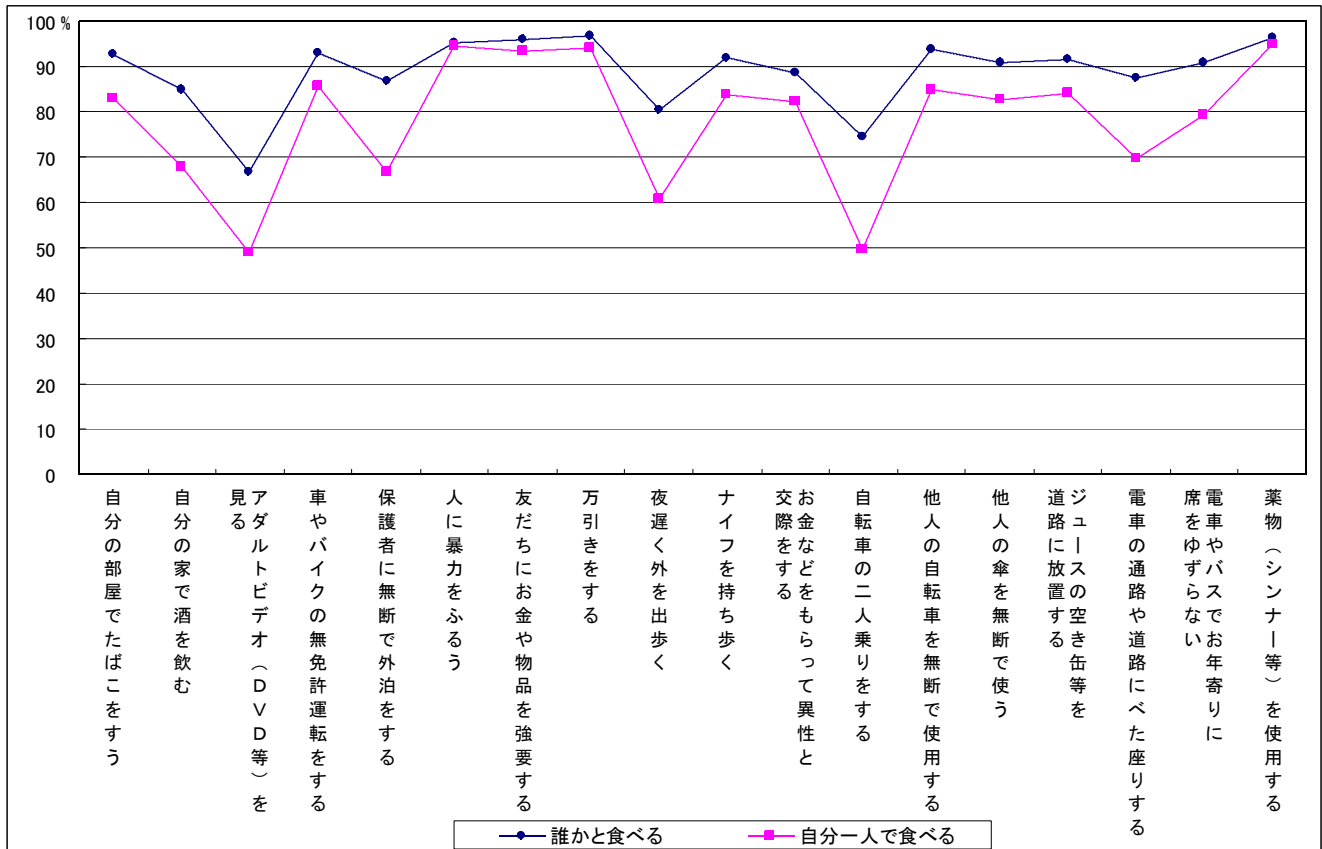
○誰かと食べる 2153人 自分一人で食べる 236人

- 夕食を「誰かと食べる」と回答した群の児童生徒は、家庭を「楽しい」と回答した割合が高い。平成14年度と同様の傾向である。

◇「夕食の相手」と「友だちの行為に対する善悪の判断」[IV 規範意識 (P.66~P.72)] との関係【クロス集計】

「夕食の相手」は「誰かと食べる」(全体から「自分一人で食べる」を除いたもの)群と、「自分一人で食べる」群の二つに分け、「友だちの行為に対する善悪の判断」は、「悪い」(とても+どちらかといえば)群と、「悪くない」(どちらかといえば+まったく)群の二つに分けて分析した。

①各項目に対して「悪い」と思うものの割合(全児童生徒)

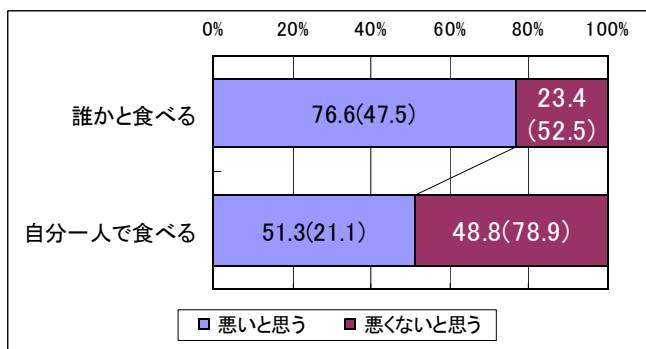


●反社会的・非社会的行動に対して「悪い」と思うものの割合は、夕食を「誰かと食べる」と回答した群が、「自分一人で食べる」と回答した群よりも、すべての項目において高い。

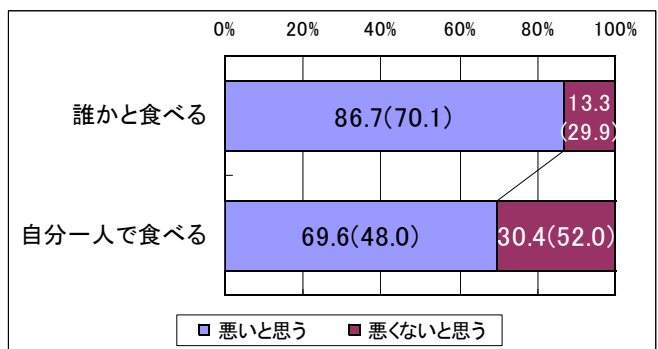
②平成14年度に顕著な傾向を示した項目における平成19年度の結果(全児童生徒)

【自転車の二人乗りをする】

【自分の家で酒を飲む】



○誰かと食べる 2096人    自分一人で食べる 160人



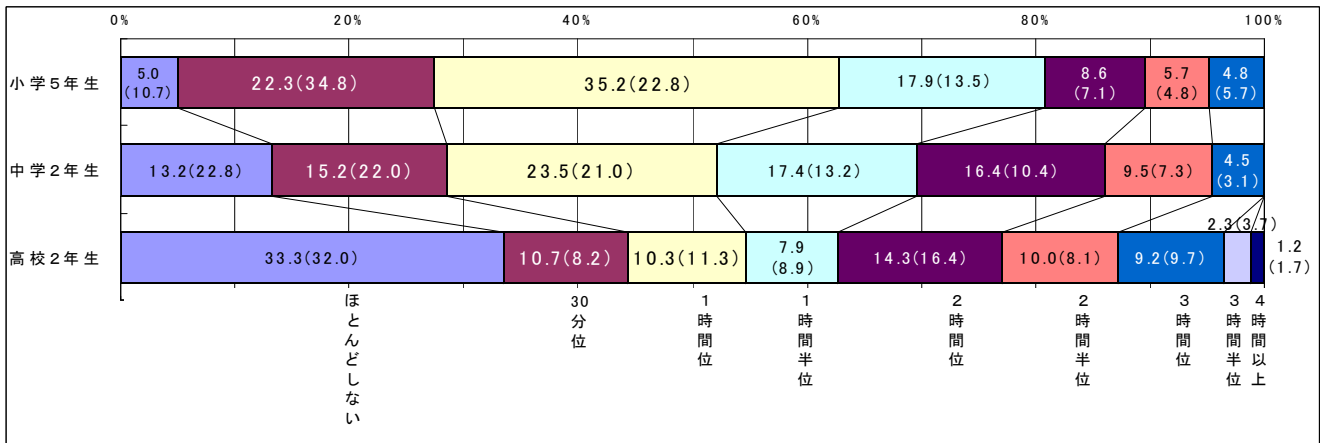
○誰かと食べる 2106人    自分一人で食べる 161人

●「自転車の二人乗りをする」「自分の家で酒を飲む」のそれぞれについて、「悪いと思う」と回答した割合は、夕食を「誰かと食べる」と回答した群、「自分一人で食べる」と回答した群ともに増加し、その差が縮まっている。

6 学習時間 【小学5年生…問9】【中学2年生…問9】【高校2年生…問9】

平日の下校後、家庭で1日平均どのくらい学習していますか（塾に行っている場合は塾での学習時間もふくめます）。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を答えてください。

- (1) ほとんどしない (2) 30分位 (3) 1時間位 (4) 1時間半位 (5) 2時間位  
 (6) 2時間半位 (7) 3時間位 (8) 3時間半位 (9) 4時間以上



「家庭と塾を合わせた学習時間」の割合が高い項目の比較

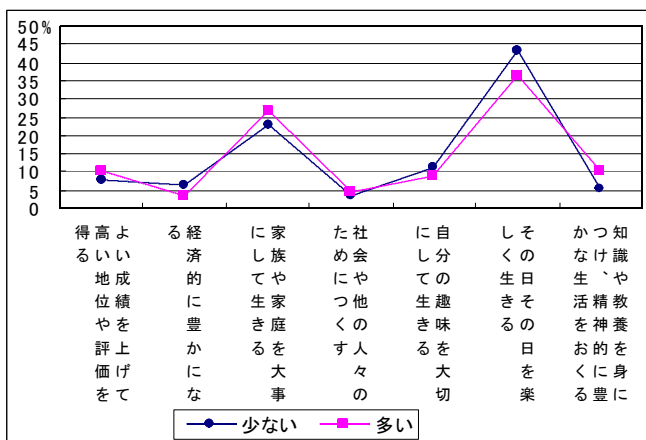
	平成14年度			平成19年度		
	1	2	3	1	2	3
小学5年生	30分位 (34.8%)	1時間位 (22.8%)	1時間半位 (13.5%)	1時間位 (35.2%)	30分位 (22.3%)	1時間半位 (17.9%)
中学2年生	ほとんどしない (22.8%)	30分位 (22.0%)	1時間位 (21.0%)	1時間位 (23.5%)	1時間半 (17.4%)	2時間位 (16.4%)
高校2年生	ほとんどしない (32.0%)	2時間位 (16.4%)	1時間位 (11.3%)	ほとんどしない (33.3%)	2時間位 (14.3%)	30分位 (10.7%)

●「ほとんどしない」と回答した児童生徒の割合が、小5で5.7ポイント、中2で9.6ポイント減少した。平成14年度と比較すると、小5・中2の学習時間は増加し、高校生は減少傾向にある。

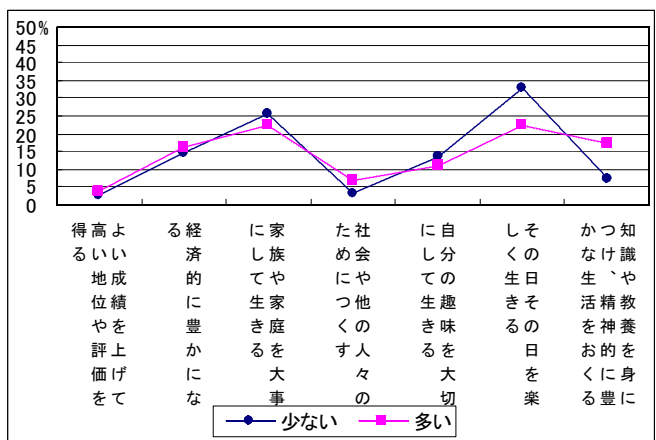
◇「学習時間」と「子どもの生き方」〔V 社会生活他 (P.104)〕との関係【クロス集計】

「学習時間」を、「多い」（「2時間位」以上）群と、「少ない」（「2時間位」未満）群に分け、「子どもの生き方」の各回答における割合を校種別に比較した（小5は「子どもの生き方」の設問なし）。

【中学2年生】



【高校2年生】

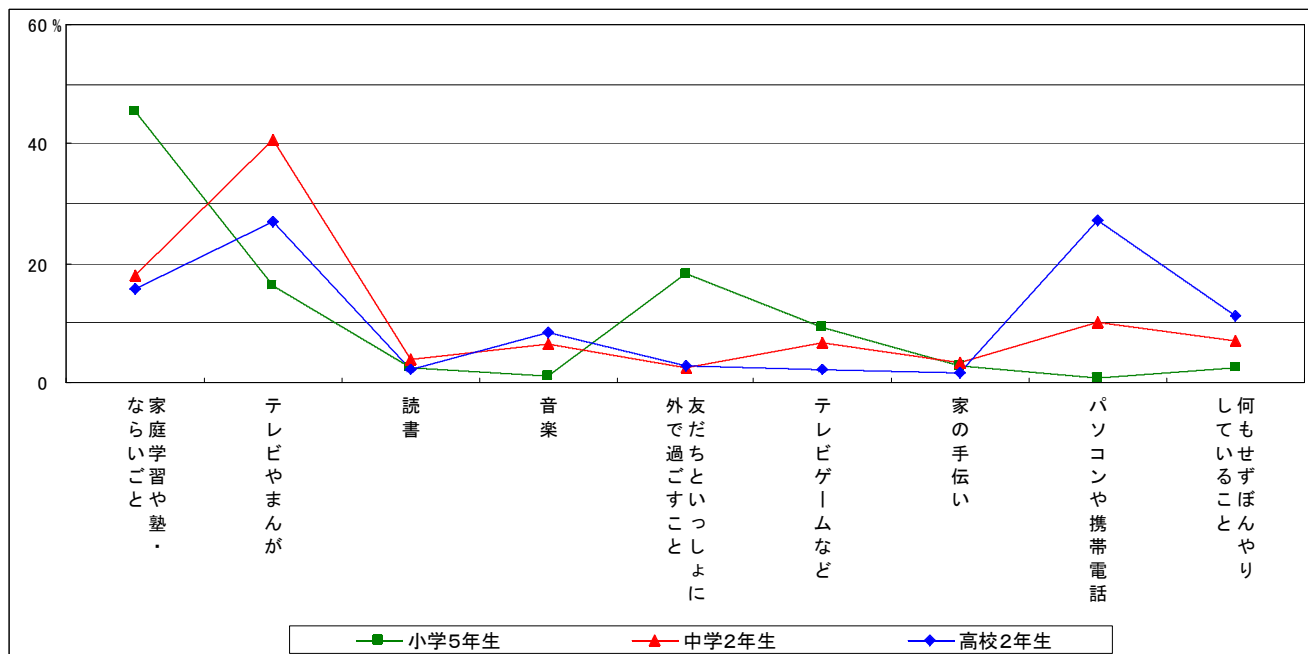


●中2・高2ともに学習時間が少ない生徒ほど「その日その日を楽しく生きる」と回答している割合が高い。高2は中2よりも「その日その日を楽しく生きる」「知識や教養を身に付け、精神的に豊かな生活をおくる」の項目において、学習時間の多少によって「生き方に対する考え方」の差異が見られる。

7 下校後の過ごし方 【小学5年生…問10】【中学2年生…問10】【高校2年生…問10】

平日の下校後、時間を一番多く使うことは何ですか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

- (1) 家庭学習や塾・ならいごと (2) テレビやまんが (3) 読書 (4) 音楽  
 (5) 友だちといっしょに外で過ごすこと (6) テレビゲームなど (7) 家の手伝い  
 (8) パソコンや携帯電話 (9) 何もせずぼんやりしていること



「下校後の過ごし方」の割合が高い項目の比較

	平成14年度			平成19年度		
	1	2	3	1	2	3
小学5年生	家庭学習や塾・ならいごと (38.4%)	友だちといっしょに外で (22.8%)	テレビやまんが (18.7%)	家庭学習や塾・ならいごと (45.5%)	友だちといっしょに外で (18.3%)	テレビやまんが (16.2%)
中学2年生	テレビやまんが (54.7%)	家庭学習や塾・ならいごと (12.9%)	テレビゲームなど (8.3%)	テレビやまんが (40.5%)	家庭学習や塾・ならいごと (18.0%)	パソコンや携帯電話 (10.0%)
高校2年生	テレビやまんが (39.8%)	何もせずぼんやり (15.6%)	家庭学習や塾・ならいごと (14.0%)	パソコンや携帯電話 (27.3%)	テレビやまんが (27.0%)	家庭学習や塾・ならいごと (15.7%)

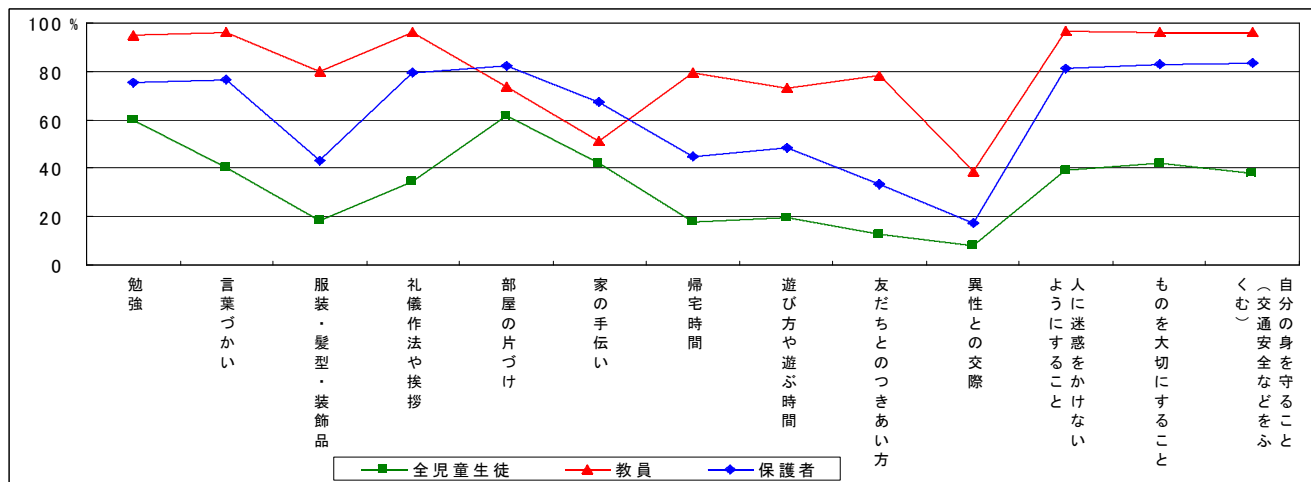
- 割合の高い3項目を見ると、小5では、「友だちといっしょに外で過ごすこと」と回答した割合が減少している。(4.5ポイント減) 中2では、今回新たに質問項目の選択肢として加えた「パソコンや携帯電話」が「テレビゲームなど」と回答した割合を上回った。(1.7ポイント) 高2では「パソコンや携帯電話」が第1位であるが、第2位の「テレビやまんが」とほぼ同じ割合である。

8 注意の程度 【小学5年生…問11】【中学2年生…問11】【高校2年生…問11】  
【教員…問7】【保護者…問10】

学校（家庭）では次のことについて、どの程度注意しますか（されますか）。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

- (1) よく注意する（される） (2) 時々注意する（される） (3) あまり注意しない（されない）  
(4) まったく注意しない（されない）

◇各項目における「注意する（される）」〔よく注意する（される）＋ときどき注意する（される）〕割合



※「異性との交際」は小5を除く。

①全体

各項目における「注意する（される）」〔よく注意する（される）＋時々注意する（される）〕割合が高い項目の比較

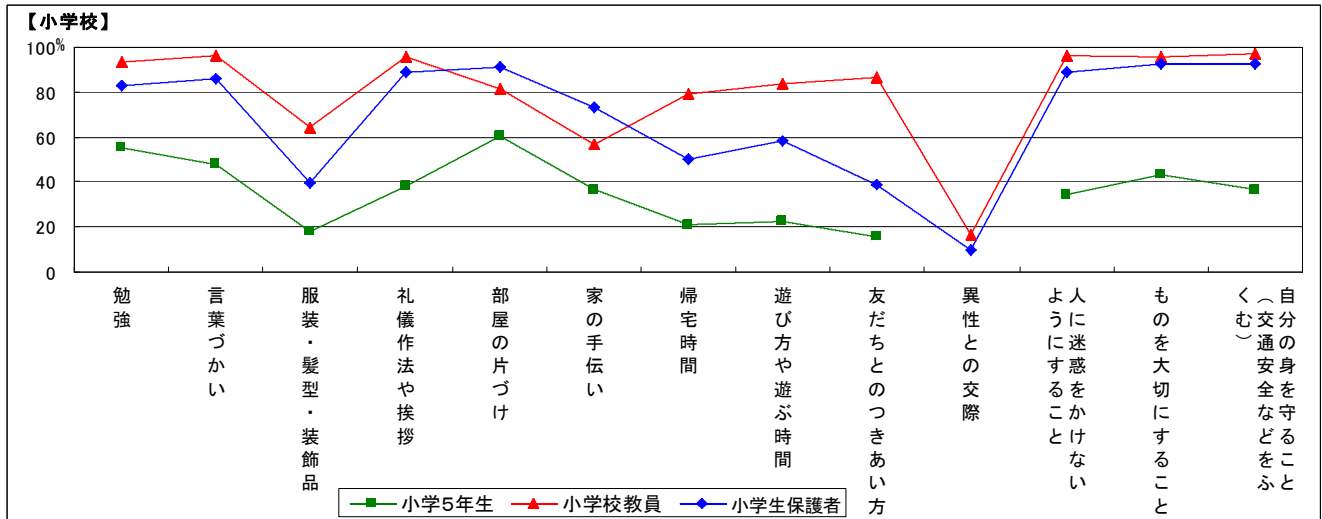
	平成14年度			平成19年度		
	1	2	3	1	2	3
全児童生徒	部屋の片付け (69.4%)	勉強 (67.8%)	人に迷惑をかけること (64.8%)	部屋の片付け (61.8%)	勉強 (59.8%)	ものを大切に する (42.2%)
教員	人に迷惑を かけない (98.3%)	礼儀作法やあい さつ (95.7%)	ものを大切に する (94.2%)	人に迷惑を かけない (96.8%)	言葉づかい・礼儀作法や挨拶 ・自分の身を守る (いずれも96.0%)	
保護者	ものを大切に する (83.6%)	部屋の片付け (82.6%)	人に迷惑を かけない (80.0%)	自分の身を まもる (83.1%)	ものを大切に する (82.5%)	部屋の片づけ (82.2%)

各項目における「注意する（される）」〔よく注意する（される）＋時々注意する（される）〕割合が低い項目の比較

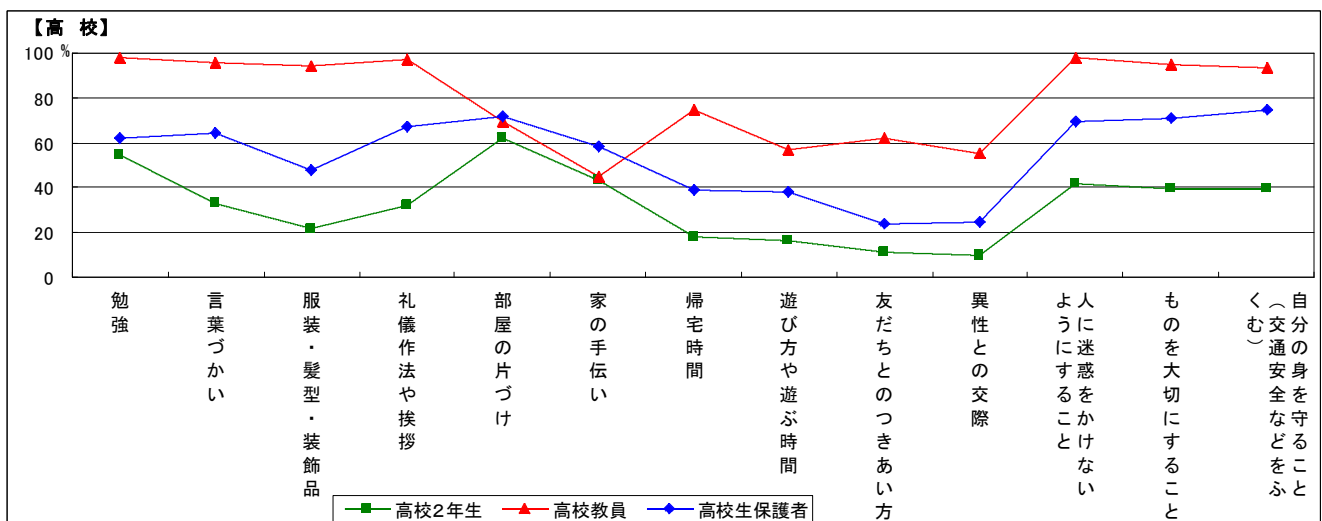
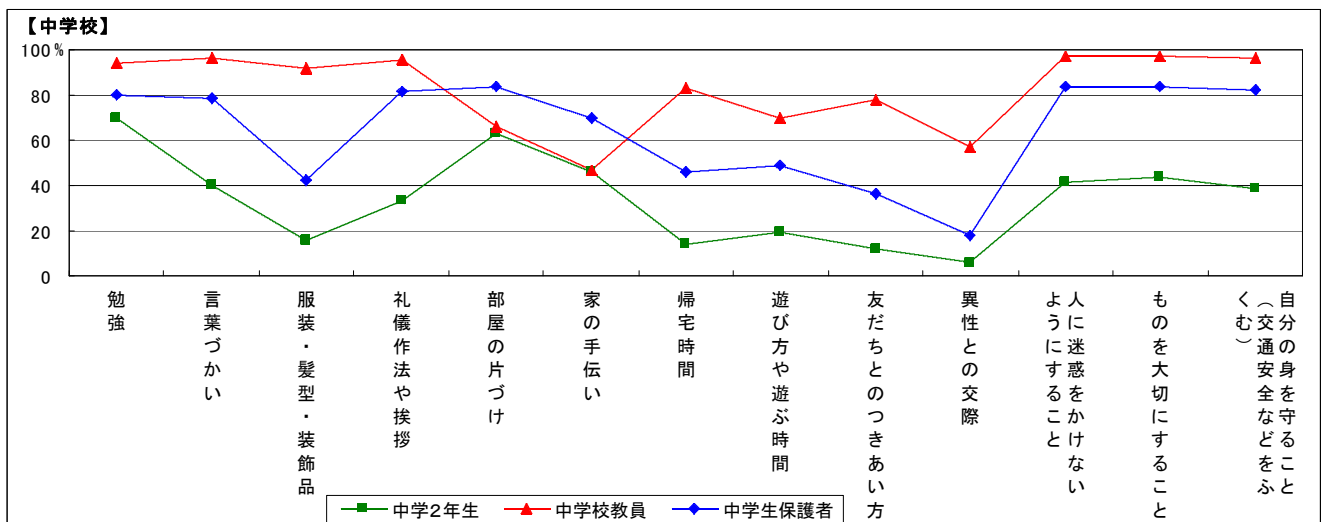
	平成14年度			平成19年度		
	1	2	3	1	2	3
全児童生徒	異性との交際 (13.4%)	友だちとのつき あい方 (24.1%)	服装・髪型・ 装飾品 (31.2%)	異性との交際 (7.9%)	友だちとのつき あい方 (12.8%)	帰宅時間 (17.6%)
教員	異性との交際 (31.6%)	家の手伝い (34.4%)	部屋の片付け (63.2%)	異性との交際 (38.2%)	家の手伝い (50.9%)	遊び方や遊ぶ 時間 (72.9%)
保護者	異性との交際 (14.4%)	友だちとのつき あい方 (29.0%)	服装・髪型・ 装飾品 (45.3%)	異性との交際 (17.1%)	友だちとのつき あい方 (33.1%)	服装・髪型・ 装飾品 (43.3%)

- 「部屋の片付け」「家の手伝い」を除いたすべての項目で、「注意する」と回答した教員の割合が保護者よりも高い。特に差が大きいものとしては、「友だちとのつきあい方」（教員 78.4%、保護者 33.1%、45.3ポイント）「服装・髪型・装飾品」（教員 79.9%、保護者 43.3%、36.6ポイント）「帰宅時間」（教員 79.5%、保護者 45.1%、34.4ポイント）である。これは平成14年度と同様の傾向であるが、それぞれの差は広がっている。（平成14年度は順に38.8ポイント、26.8ポイント、23.9ポイント）また、「注意する（される）」割合が低い項目は、児童生徒、教員、保護者とも「異性との交際」で平成14年度と同じであるが、教員と保護者は注意する割合が高くなっているのに比べ、児童生徒は低くなっている。「友だちとのつきあい方」についても保護者は注意する割合が高くなっているのに比べ、児童生徒は低くなっている。

## ②校種別



※小5は「異性との交際」を除く。



- 児童生徒と保護者の回答の割合の傾向は、全校種とも同様である。
- 平成14年度と比較すると、小学校教員の「服装・髪型・装飾品」について「注意する」と回答した割合が増加している。  
(平成14年度 39.9%, 平成19年度 64.1%, 24.2ポイント)

◇「家の人の注意」と「友だちの行為に対する善悪の判断」〔IV 規範意識 (P. 66~P. 72)〕との関係【クロス集計】

「家の人の注意」は、各項目を「注意する」(よく+時々)群と、「注意しない」(あまり+まったく)群に分け、「友だちの行為に対する善悪の判断」は、各項目を「悪いと思う」(とても+どちらかといえば)群と、「悪くないと思う」(どちらかといえば+まったく)群の二つに分けた。

そして、各項目について、「注意する」家庭の児童生徒で友だちの反社会的・非社会的行動を「悪いと思う」割合と、「注意しない」家庭の児童生徒で「悪いと思う」割合を比較した。

【家の人が「注意する」群の「悪いと思う」割合から、「注意しない」群の「悪いと思う」割合を引いた差】  
 (例)「勉強」と「自分の部屋でたばこをすう」の欄・・・2.2ポイント多い

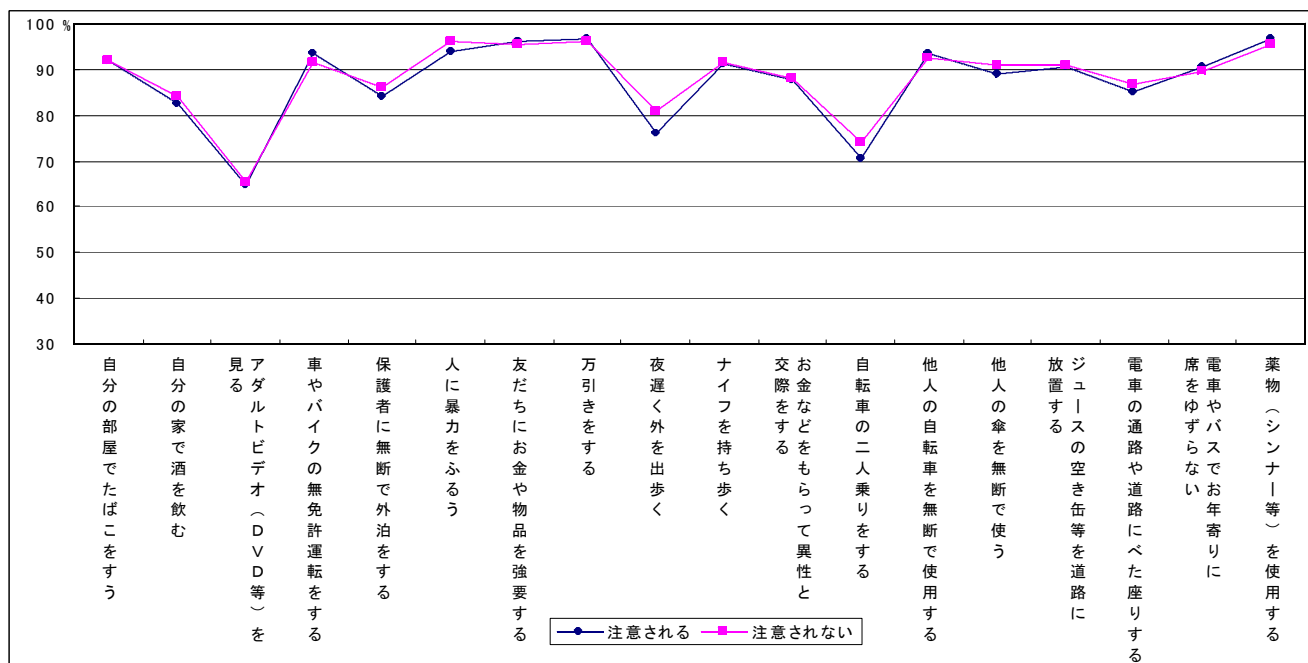
家の人が勉強について「注意する」と回答した児童生徒が、「自分の部屋でたばこをすう」ことを「悪い」と回答した割合…92.8%  
 家の人が勉強について「注意しない」と回答した児童生徒が、「自分の部屋でたばこをすう」ことを「悪い」と回答した割合…90.6%  
 92.8-90.6=2.2 → 「注意する」「悪いと思う」児童生徒が「注意しない」「悪いと思う」児童生徒より2.2ポイント多い。

※ 数字が大きいほど、「注意する」家庭が「注意しない」家庭よりも「悪いと思う」児童生徒が多いことを表している。

友だちの行為 注意の項目	自分の部屋でたばこをすう	自分の家で酒を飲む	アダルトビデオを見る	無免許運転をする	黙って外泊をする	人に暴力をふるう	人に金品を強要する	万引きをする	夜遅く外を出歩く	ナイフを持ち歩くなど	お金などをもらって異性と交際をする	自転車の二人乗りをする	他人の自転車を黙って乗る	他人の傘を無断で使う	空き缶を道路に放置する	通路や道路にべた座りする	電車やバスでお年寄りに席を譲らない	薬物を使用する
勉強	2.2	2.0	9.3	1.7	0.3	-	-	0.5	2.0	0.5	2.4	0.7	0.3	-	-	-	1.5	0.2
言葉づかい	0.8	1.2	0.5	0.2	2.1	0.6	0.5	0.3	1.9	2.2	0.4	4.6	2.7	1.7	0.1	2.1	0.5	0.4
髪型・服装・装飾品	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
礼儀作法やあいさつ	5.6	9.0	10.1	6.2	3.3	3.2	2.2	2.8	8.4	2.8	6.1	7.2	4.1	3.8	6.3	6.1	2.8	4.0
部屋の片づけ	2.1	1.2	4.2	1.6	0.4	0.4	0.5	0.6	0.7	0.4	0.6	1.5	2.2	0.6	0.9	0.9	1.2	0.4
家の手伝い	1.1	0.1	3.0	2.7	1.1	1.3	1.5	1.0	0.7	1.1	2.1	1.3	2.0	2.2	0.8	0.2	0.9	0.9
帰宅時間	2.2	0.3	5.1	3.6	0.6	1.5	1.8	1.8	1.7	0.1	1.0	1.8	1.4	0.3	0.7	0.5	0.8	1.5
友だちとのつきあい方	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
異性との交際	4.7	6.6	3.4	3.4	3.7	1.6	1.3	1.3	1.9	1.0	3.9	0.8	3.7	2.9	2.8	3.9	1.7	3.9
人に迷惑をかけないようにすること	0.7	1.6	0.9	0.2	1.5	3.1	0.8	2.0	4.3	0.3	3.9	2.2	0.9	2.3	2.6	1.0	1.5	2.4
ものを大切にすること	8.7	9.2	4.8	5.0	3.3	5.2	4.2	6.1	8.3	0.3	6.4	4.9	5.4	10.5	5.6	6.1	2.8	4.6
交通安全など自分の身を守ること	0.3	1.8	0.9	2.2	1.8	2.2	0.8	0.6	4.9	0.3	0.2	3.5	0.9	1.8	0.2	1.8	1.0	1.3
	0.3	0.8	0.8	0.7	2.1	1.2	0.8	0.3	3.7	0.9	2.7	0.2	0.1	0.8	0.1	0.4	0.2	0.3
	1.3	0.8	0.5	2.6	3.0	0.0	0.2	0.9	2.1	2.4	1.6	0.8	0.6	0.3	1.0	0.9	2.1	0.1

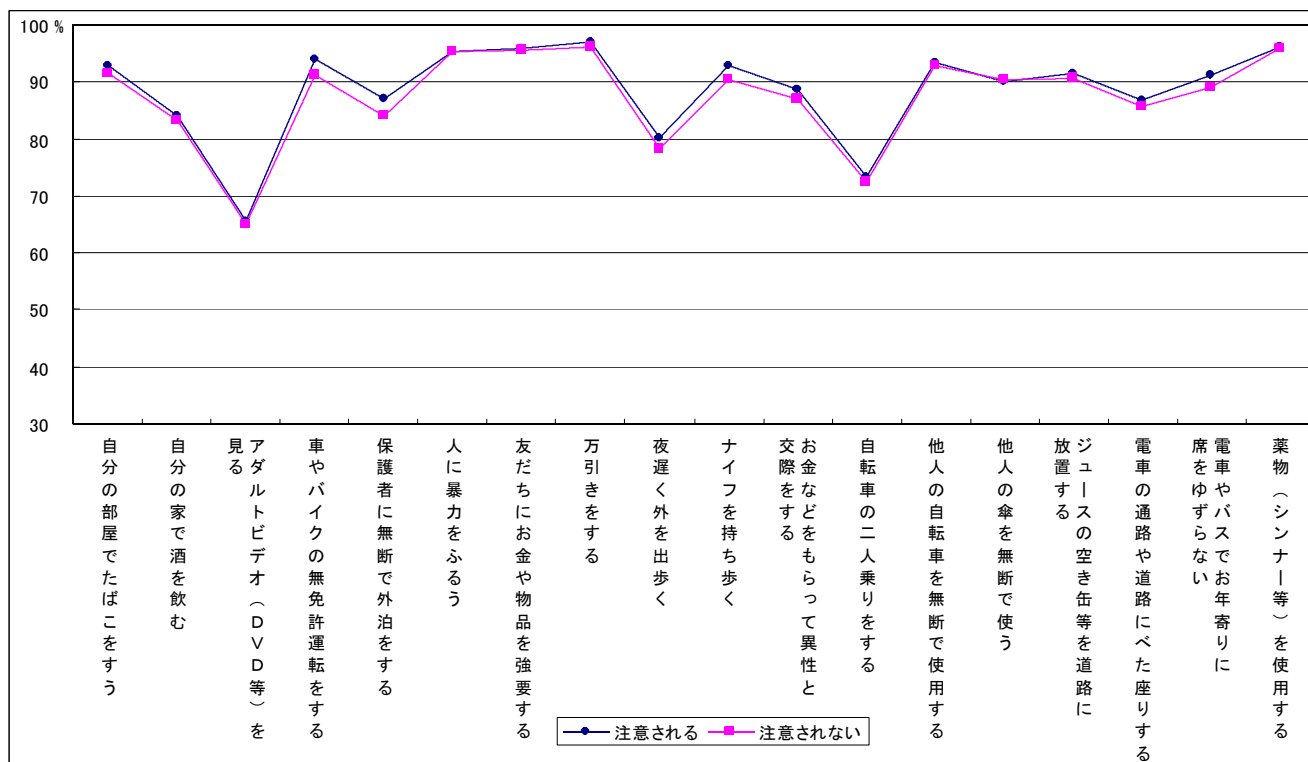


◇平成14年度に顕著な傾向を示した項目における平成19年度の結果（全児童生徒）  
【人に迷惑をかけないようにすること】



- 平成14年度において顕著な差が見られなかった「人に迷惑をかけないようにすること」については、平成14年度と同様、注意されているか否かによる規範意識の差はほとんど見られない。

【交通安全など自分の身を守ること】

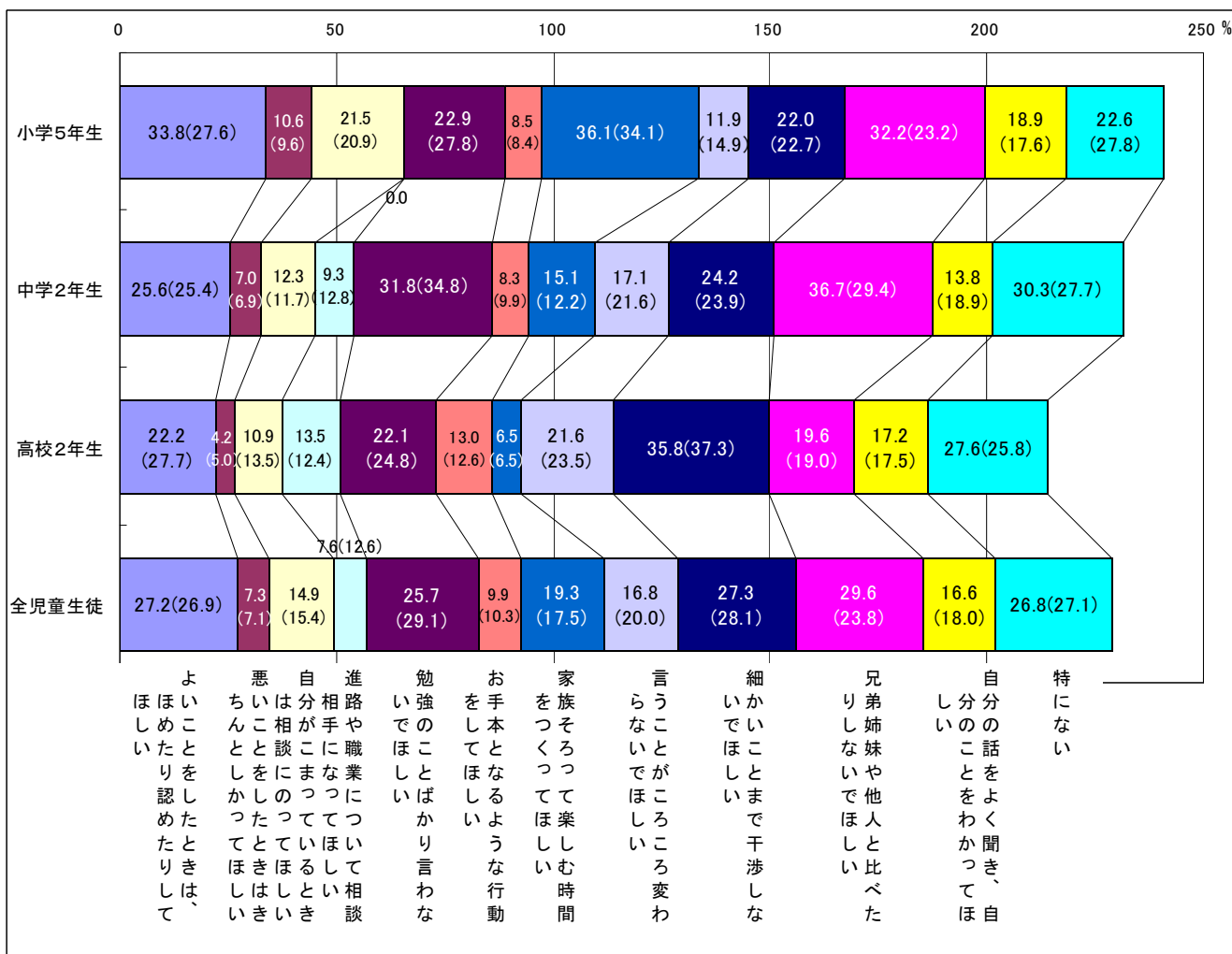


- 平成14年度において顕著な差（1.6ポイント～16.4ポイント）が見られた「交通安全など自分の身を守ること」については注意されているか否かによる規範意識の差はほとんど見られない。

9 家の人にしてほしいこと 【小学5年生…問12】【中学2年生…問12】【高校2年生…問12】

あなたは家の人になんかことをしてほしいですか。次の中からあてはまるものを三つまで選んで番号を教えてください。

- (1) よいことをしたときは、ほめたり認めたりしてほしい
- (2) 悪いことをしたときは、きちんとしかってほしい
- (3) 自分がこまっているときは、相談ののってほしい
- (4) 進路や職業について相談相手になってほしい
- (5) 勉強のことばかり言わないでほしい
- (6) お手本となるような行動をしてほしい
- (7) 家族そろって楽しむ時間をつくってほしい
- (8) 言うことがころころ変わらないでほしい
- (9) 細かいことまで干渉しないでほしい
- (10) 兄弟姉妹や他人と比べたりしないでほしい
- (11) 自分の話をよく聞き、自分のことをわかってほしい
- (12) 特にない

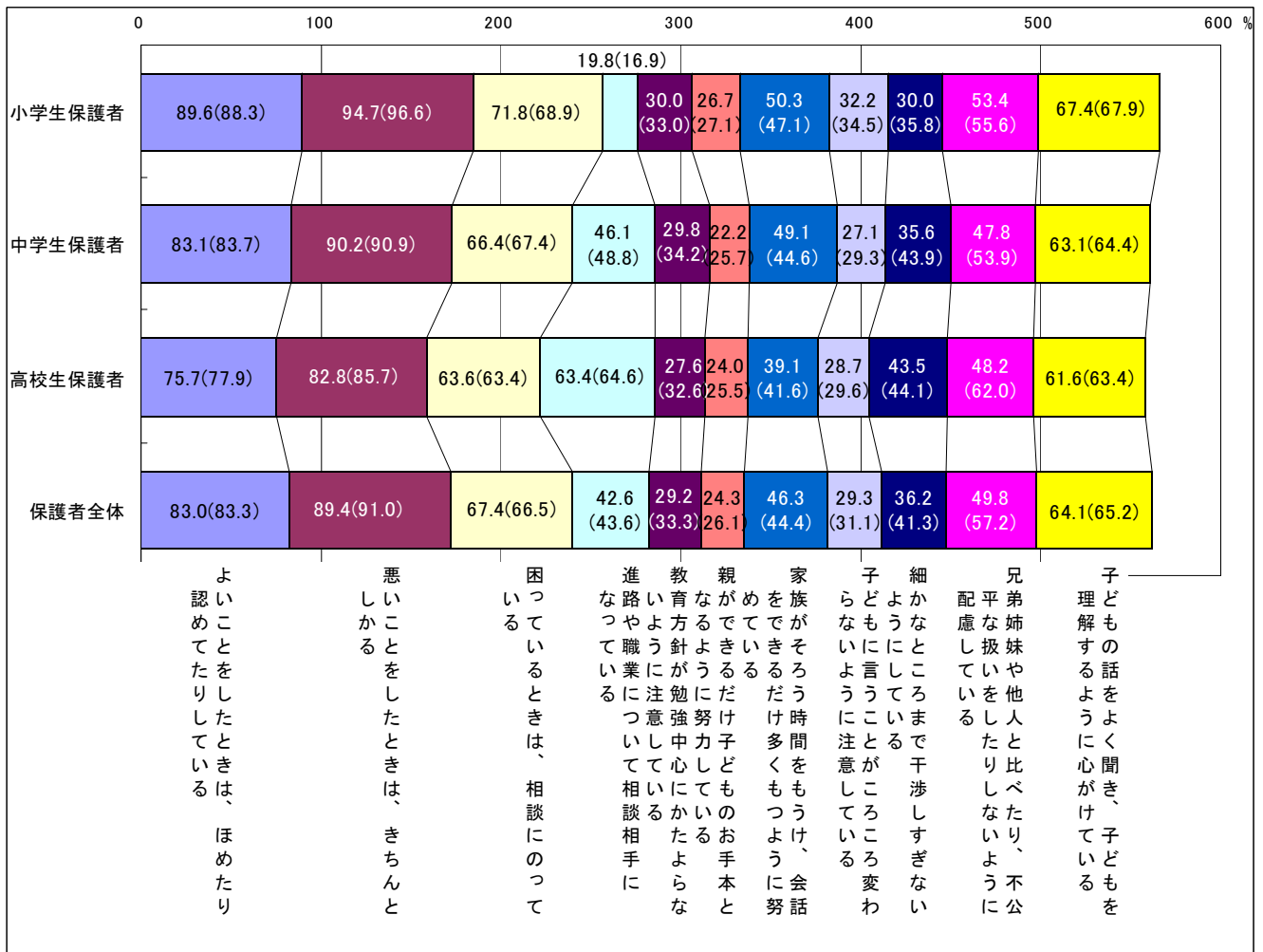


- 児童生徒が家の人に望むことで、全児童生徒の回答の割合が最も高いのは「兄弟姉妹や他人と比べないでほしい」である。次いで、「細かいことまで干渉しないでほしい」「よいことをしたときは、ほめたり認めたりしてほしい」「勉強のことばかり言わないでほしい」の順となっている。校種別で最も高い項目は、小5で「家族そろって楽しむ時間をつくってほしい」、中2で「兄弟姉妹や他人と比べたりしないでほしい」、高2で「細かいことまで干渉しないでほしい」である。
- 平成14年度は全児童生徒で最も回答の割合が高かったのは「勉強のことばかり言わないでほしい」であったが、平成19年度は「兄弟姉妹や他人と比べないでほしい」である。

10 親の指導 【保護者…問11】

子どもさんにどのように接していますか。あてはまるものをすべて選んで番号を答えてください。

- (1) よいことをしたときは、ほめたり認めたりしている
- (2) 悪いことをしたときは、きちんとしかる
- (3) 困っているときは、相談にのっている
- (4) 進路や職業について、相談相手になっている
- (5) 教育方針が勉強中心にかたよらないように注意している
- (6) 親ができるだけ子どものお手本となるように努力している
- (7) 家族がそろう時間をもうけ、会話をできるだけ多くもつように努めている
- (8) 子どもに言うことがころころ変わらないように注意している
- (9) 細かなところまで干渉しすぎないようにしている
- (10) 兄弟姉妹や他人と比べたり、不公平な扱いをしたりしないように配慮している
- (11) 子どもの話をよく聞き、子どもを理解するように心がけている

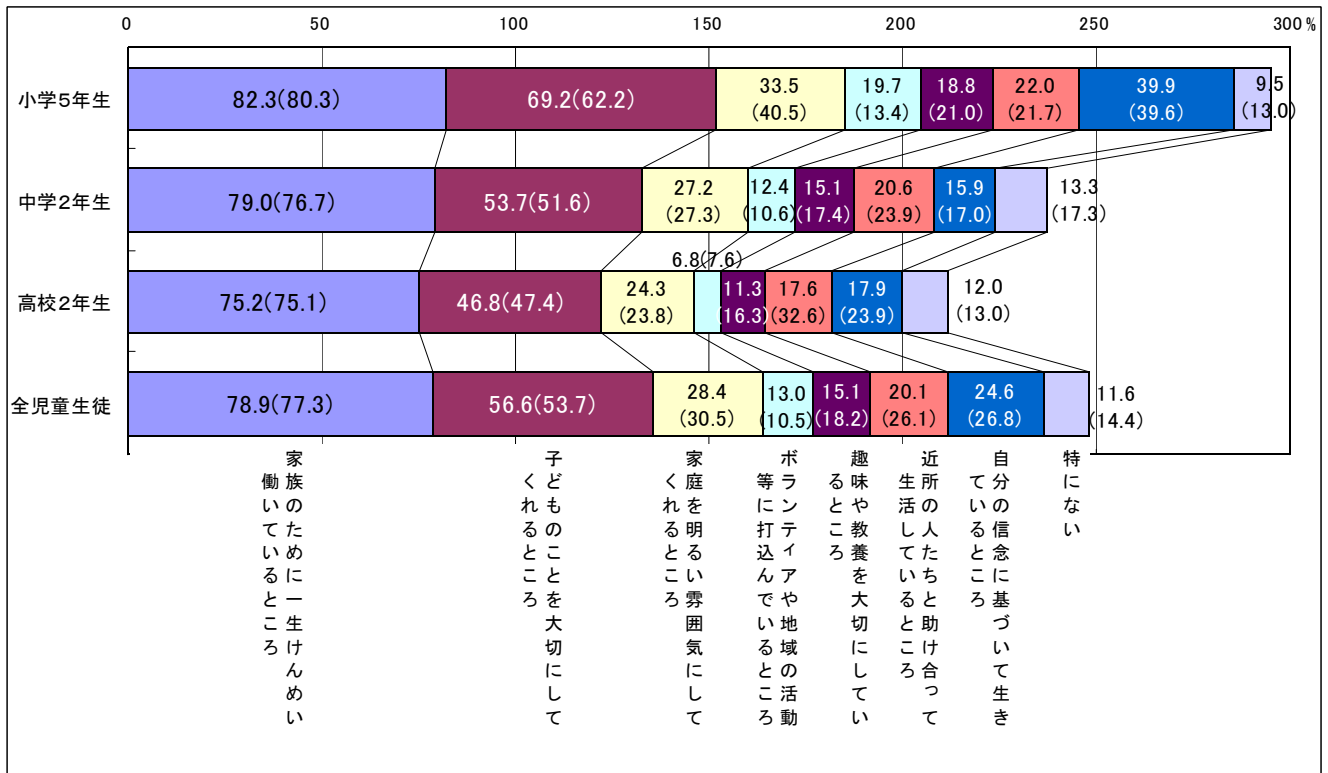


- 保護者の児童生徒に対する接し方で、保護者全体の回答した割合が最も高いのは、「悪いことをしたときは、きちんとしかる」である。次いで「よいことをしたときは、ほめたり認めたりしている」「困っているときは、相談にのっている」の順になっている。これらの割合は、小・中・高と児童生徒の年齢が上がるにつれて減る傾向にある。
- 保護者全体の回答した割合が最も高いのは「悪いことをしたときはきちんとしかる」(89.4%)であるが、これに対して児童生徒の回答した割合が最も低いのは「悪いことをしたときは、きちんとしかってほしい」(7.3% ※前問9「家の人にしてほしいこと」より)である。この傾向は平成14年度と同様である。

1.1 家の人のすばらしさ 【小学5年生…問1.3】【中学2年生…問1.3】【高校2年生…問1.3】

保護者（親など）の姿を見てすばらしいと思うところは何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号を教えてください。

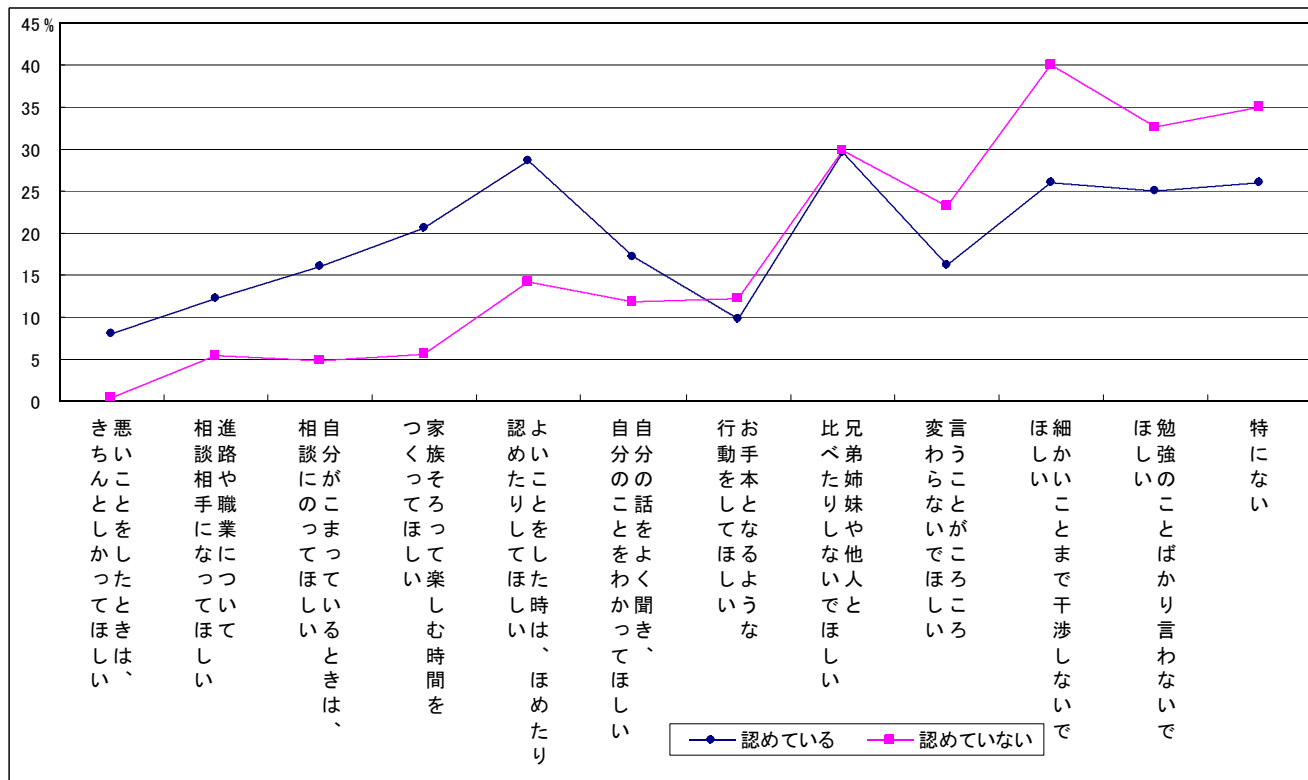
- (1) 家族のために一生けんめい働いているところ
- (2) 子どものことを大切にしてくれるところ
- (3) 家庭を明るい雰囲気してくれるところ
- (4) ボランティアや地域の活動等に打ちこんでいるところ
- (5) 趣味や教養を大切にしているところ
- (6) 近所の人たちと助け合って生活しているところ
- (7) 自分の信念に基づいて生活しているところ
- (8) 特にない



- 全校種で「家族のために一生けんめい働いているところ」と回答した割合が最も高く、次いで「子どものことを大切にしてくれるところ」となっている。これは、平成14年度と同様である。

### ◇「家の人のすばらしさ」と「家の人にしてほしいこと」との関係【クロス集計】

家の人のすばらしさについては、「特にない」を除いて一つ以上選択した「認めている」群と、「特にない」だけを選択した「認めていない」群に分け、家の人にしてほしいことの各項目の割合をそれぞれ比較し分析した。

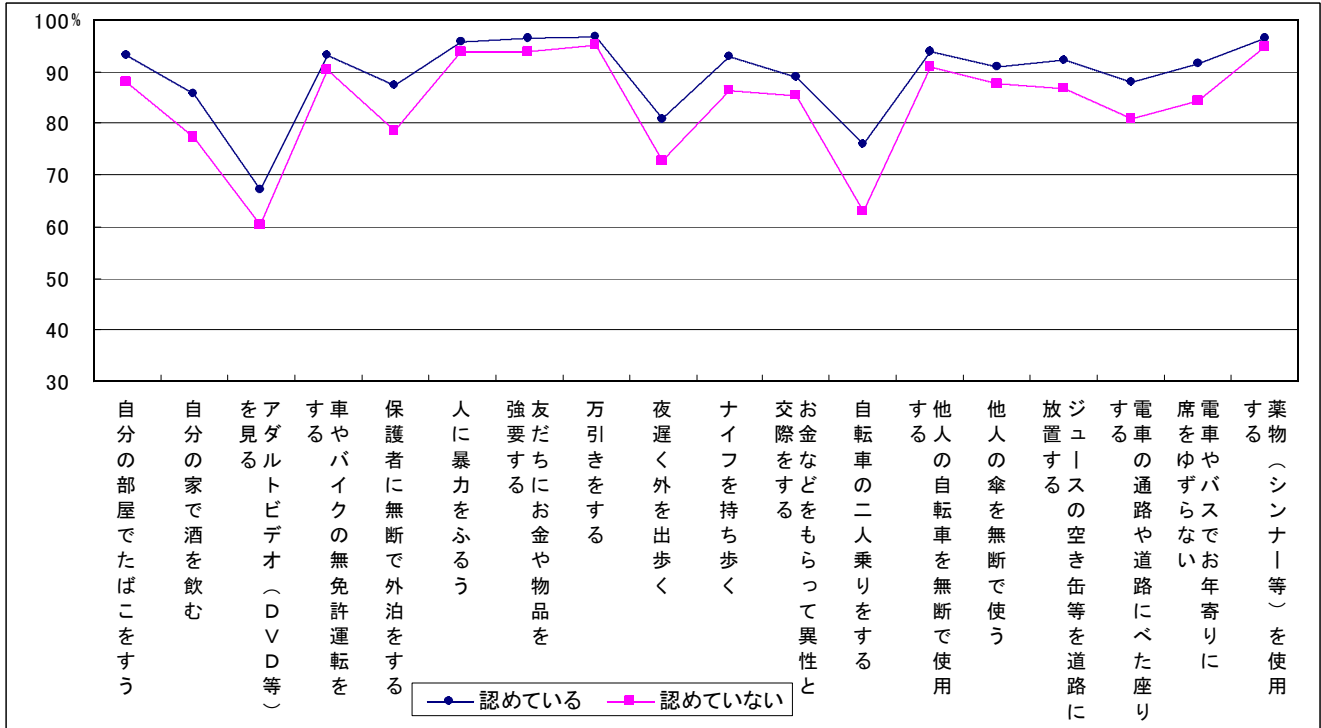


- 家の人のすばらしさを「認めている」群は、「認めていない」群と比べて、「ほめる、認める」「しかる」「相談相手になる」「家族で楽しむ」等、積極的な関わりに対する要望が多い。一方、「認めていない」群は「認めている」群と比べて、「細かいことまで干渉しないでほしい」「勉強のことばかり言わないでほしい」「言うことがこころろ変わらないでほしい」等、家の人の現在の行動を改めてほしいという要望が多い。「兄弟姉妹や他人と比べたりしないでほしい」は「認めている」群、「認めていない」群ともに同じ割合である。

◇「家の人のすばらしさ」と「友だちの行為に対する善悪の判断」[IV 規範意識 (P.66~P.72)] との関係【クロス集計】

家の人のすばらしさについては「認めている」（「特にない」を除いて一つ以上選択したもの）群と、「認めていない」（「特にない」だけを選択したもの）群の二つに分け、規範意識の各項目については「悪い」（とても+どちらかといえ）と思う群と、「悪くない」（どちらかといえ+まったく）と思う群の二つに分けて分析した。

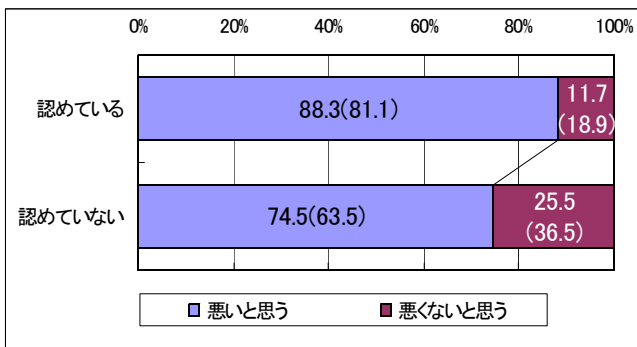
①規範意識各項目との関係（「悪い」と思う割合）



● 反社会的・非社会的行動に対して「悪い」と思うものの割合は、「認めている」と回答した群が、「認めていない」と回答した群よりも、すべての項目において高い。

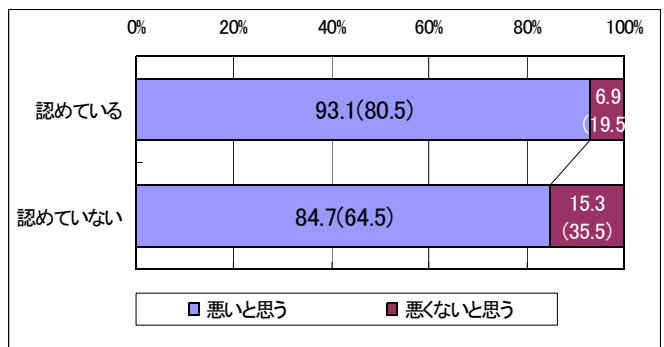
②平成14年度に顕著な傾向を示した項目における平成19年度の結果

【保護者に無断で外泊する】



○認めている 2060人    認めていない 208人

【電車やバスでお年寄りに席をゆずらない】



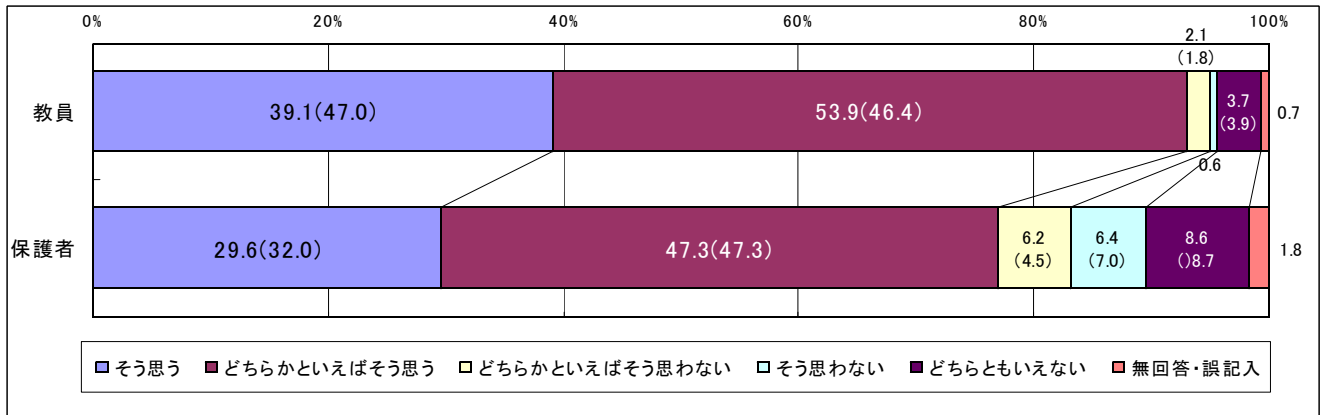
○認めている 2055人    認めていない 203人

● 「保護者に無断で外泊する」「電車やバスでお年寄りに席をゆずらない」のそれぞれについて、「悪いと思う」と回答した割合は、家の人のすばらしさを「認めている」と回答した群、「認めていない」と回答した群ともに増加し、その差が縮まっている。

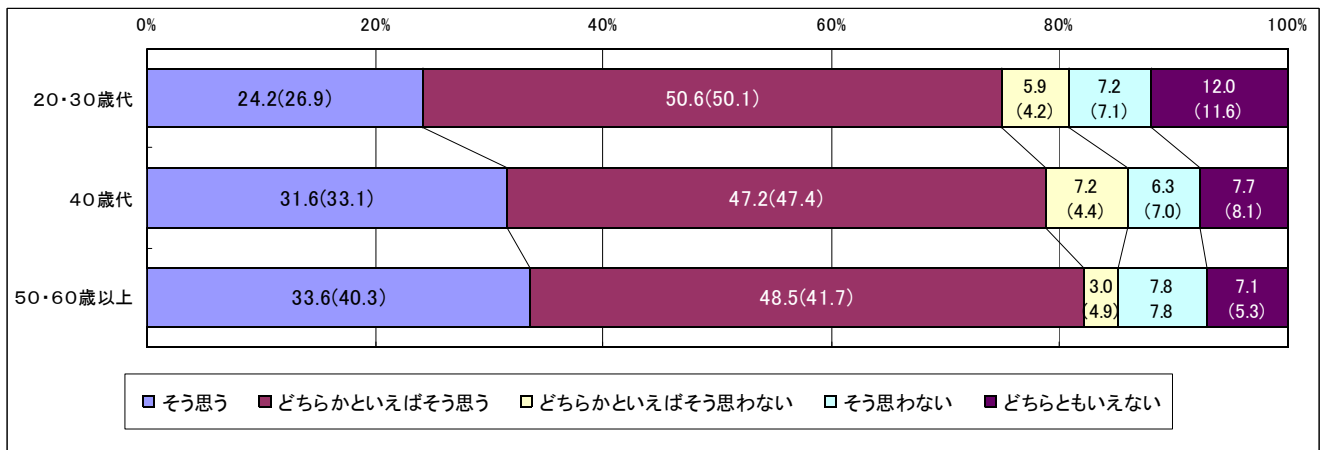
## 12 家庭のしつけ 【教員…問5】【保護者…問7】

最近、家庭のしつけがあまりされていないという意見がありますが、あなたはどのように思いますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

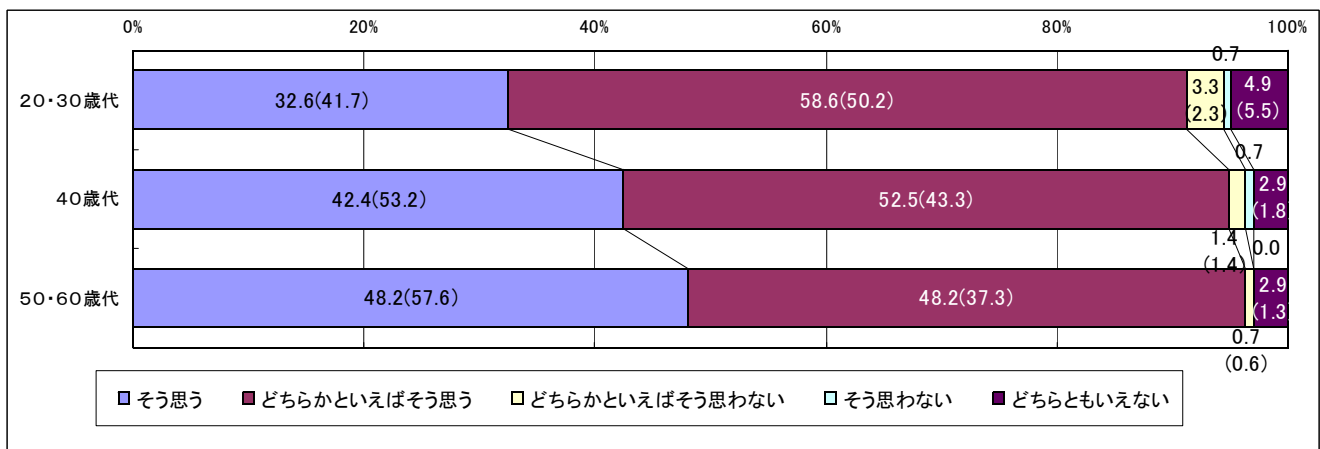
- (1) そう思う (2) どちらかといえばそう思う (3) どちらかといえばそう思わない  
 (4) そう思わない (5) どちらともいえない



### ◇年代別（保護者）



### ◇年代別（教員）

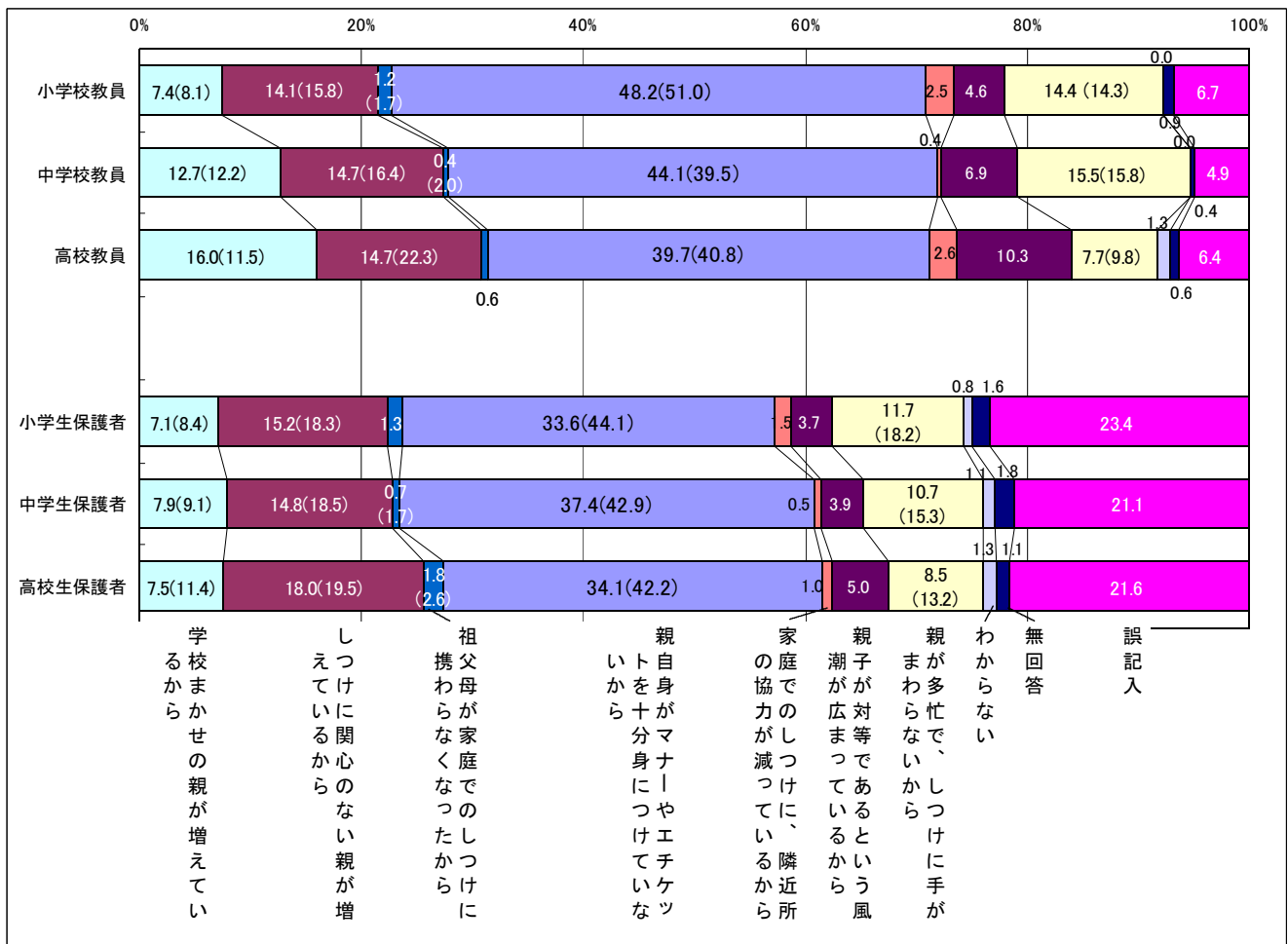


- 教員と保護者を比べると、「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」では、教員 93.0%、保護者 76.9%であった。教員・保護者ともに、学年が上がるにつれて、「そう思う」と回答した割合が高くなっている。

### 1.3 しつけがされていない原因 【教員…問6】【保護者…問8】

問5で(1) そう思う, (2) どちらかといえばそう思うと答えた方にかがいます。家庭でのしつけがあまりされていない原因はどこにあると思いますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

- (1) 学校まかせの親が増えているから
- (2) しつけに関心のない親が増えているから
- (3) 祖父母が家庭でのしつけに携わらなくなったから
- (4) 親自身がマナーやエチケットを十分身に付けていないから
- (5) 家庭でのしつけに、隣近所の協力が減っているから
- (6) 親子が対等であるという風潮が広がっているから
- (7) 親が多忙で、しつけに手がまわらないから
- (8) わからない



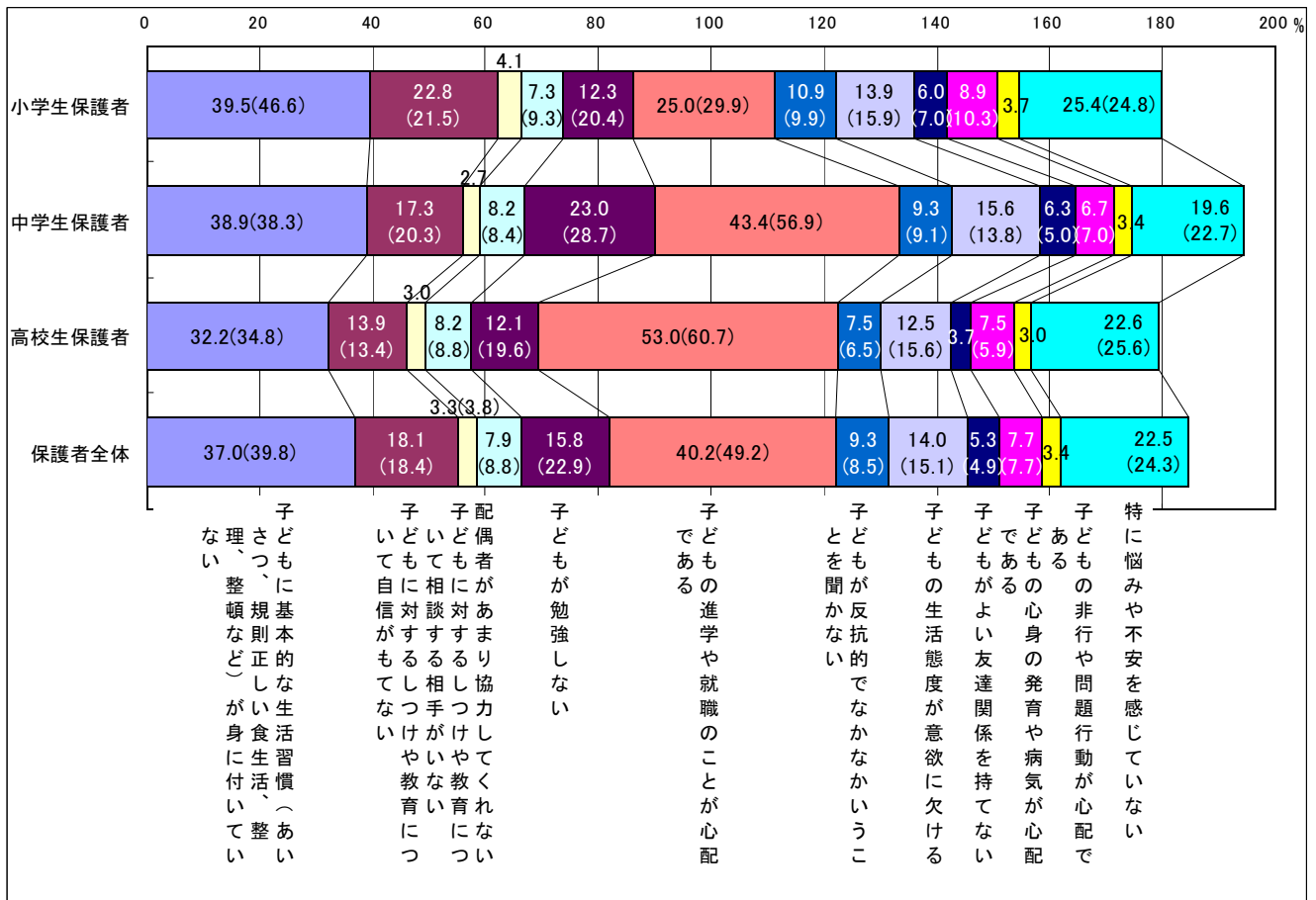
- 「しつけがなされていない原因」については教員・保護者の考え方がほぼ一致している。両者ともに「親自身がマナーやエチケットを十分身に付けていないから」と回答した割合が最も高い。



14 しつけ・教育についての悩み 【保護者…問9】

子どもさんのしつけや教育に悩んだり、不安を感じていることをあげるとすれば、どのようなことがありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号を教えてください。

- (1) 子どもに基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理、整頓など）が身に付いていない
- (2) 子どもに対するしつけや教育について自信がもてない
- (3) 子どもに対するしつけや教育について相談する相手がいない
- (4) 配偶者があまり協力してくれない
- (5) 子どもが勉強しない
- (6) 子どもの進学や就職のことが心配である
- (7) 子どもが反抗的でなかなかいうことを聞かない
- (8) 子どもの生活態度が意欲に欠ける
- (9) 子どもがよい友だち関係を持ってない
- (10) 子どもの心身の発育や病気が心配である
- (11) 子どもの非行や問題行動が心配である
- (12) 特に悩みや不安を感じていない



● しつけ・教育についての悩みや不安に関する保護者全体の回答の割合で、最も高いのは「子どもの進学や就職のことが心配である」である。次いで、「子どもに基本的な生活習慣が身に付いていない」「子どもに対するしつけや教育について自信がもてない」の順である。逆に低いのは、「子どもに対するしつけや教育についての相談相手がいない」「子どもの非行や問題行動が心配である」「子どもがよい友だち関係を持ってない」である。「特に悩みや不安を感じていない」も3番目に多い。「基本的な生活習慣」については、小・中・高と児童生徒の学年が上がるにつれて保護者の悩みや不安は減少し、「進学や就職」については児童生徒の学年が上がるにつれて増加している。これは平成14年度と同様の傾向である。